堂 園 遺 跡

福岡県春日市小倉所在の遺跡

春日市文化財調査報告書　第 67 集

序

春日市は福岡市の南に隣接し、昭和 47 年の市制施行以来、福岡市のベットタウンとして都市化が進みました。かつての農地や山林は開発され、これらの開発に先立ち遺跡の発掘調査が行われた結果、貴重な文化財が多く確認されることになりました。その一方で、住宅開発が早くに行われたため、調査ができずに開発されてしまった地域もあります。堂園遺跡がある旧小倉村は春日市の中央に位置し、大半が住宅地となっています。当地域は埋蔵文化財が多く所在する地域ではありますが、埋蔵文化財以外にも小倉住吉神社で行われる、半煮えの料理や牛の舌餅が供えられる十月例祭や、嫁のしりたたき、盆綱引きといった行事が伝承されている地域でもあります。

本書は春日市が平成 20 年度に発掘調査を実施した堂園遺跡 1 次調査の調査報告書です。堂園遺跡は旧小倉村集落の南部にあたり、宅地造成により丘陵部の多くは削平されましたが、1 次調査では、削平される前の遺跡を想定する上で知見を得ることができました。

本書が埋蔵文化財への理解を深める研究資料として活用され、また市民の皆様が郷土の歴史を知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際し御指導御協力を賜りました方々に深く謝意を申し上げます。

平成 24 年 3 月 31 日

春日市教育委員会
教育長　山　本　直　俊

例　　言

1．本書は 2008 年８月６日から同年９月５日にかけて春日市教育委員会が実施した堂園遺跡１次調査の報告書である。

2．遺構の実測は森井千賀子、吉田浩之が行い、製図は伊東ひかりが行った。

3．遺物の実測は柳智子、島津屋幸子、川端美由紀、久家春美、桑野暢子、森井が行い、製図は島津屋、柳、森井が行った。

4．掲載した写真のうち、遺構については森井が撮影し、遺物については岡紀久夫（文化財写真工房）が行った。

5．本書に使用した２万５千分の１の地形図は、国土地理院発行の『福岡南部』（1991 年）である。

6．出土した陶磁器の分類は宮崎亮一編「大宰府条房跡ＸＶ　陶磁器分類編」2000　太宰府市教育委員会による。

7．土層断面観察の記載について、土色は小山正志・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1996 年後期版　農林水産省農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。

8．本書の執筆、編集は森井が行った。

本　文　目　次

Ⅰ　はじめに …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　調査の組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2
Ⅲ　調査の内容 …… 6
　1　調査の概要 …… 6
　2　出土遺物 …… 8
　　⑴　土器・陶磁器 …… 8
　　⑵　土製品 …… 16
　　⑶　瓦 …… 16
　　⑷　青銅器鋳造関連遺物 …… 18
　　⑸　鉄器類 …… 18
　　⑹　石　器 …… 18
Ⅳ　まとめ …… 20

図　版　目　次

図版１　（1）調査区西半全景（東から）
　　（2）調査区西半西壁土層断面（北東から）
図版２　（1）調査区東半全景（南から）
　　（2）調査区東半東壁土層断面（西から）
図版３　（1）第２トレンチ東壁土層断面（南西から）
　　（2）第２トレンチ南端西壁（東から）
図版４　包含層出土弥生土器
図版５　包含層出土弥生土器、須恵器、瓦
図版６　包含層出土土製品、石器、鉄器、青銅器鋳造関連遺物

挿　図　目　次

第 1 図　堂園遺跡周辺遺跡分布図（１/25,000）…… 3
第 2 図　堂園遺跡位置図（1/2,500）…… 4

第 3 図　旧地形復元図による調査位置図（1/2,500）…… 5
第 4 図　堂園遺跡 1 次調査遺構配置図（1/100）…… 6
第 5 図　調査区西側第 1 トレンチ土層断面実測図（西壁）（1/40）…… 7
第 6 図　調査区東側第 2 トレンチ土層断面実測図及び模式図（東壁）（1/40）…… 7
第 7 図　調査区東側東壁土層断面実測図（1/40）…… 8
第 8 図　弥生土器実測図①（1/4）…… 9
第 9 図　弥生土器実測図②（1/4）…… 10
第 10 図　弥生土器実測図③（1/4）…… 11
第 11 図　弥生土器実測図④（1/4）…… 12
第 12 図　土師器実測図（1/3）…… 13
第 13 図　須恵器実測図①（1/3）…… 14
第 14 図　須恵器実測図②（1/3）…… 15
第 15 図　陶磁器実測図（1/3）…… 15
第 16 図　土製品実測図（1/2）…… 16
第 17 図　瓦実測図（1/3）…… 16
第 18 図　青銅器生産関連遺物実測図（1/2）…… 17
第 19 図　鉄器・鉄滓実測図（1/2）…… 18
第 20 図　石器実測図（1/2）…… 19

表　目　次

表 1　出土土器一覧表 …… 21

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経過

堂園遺跡１次調査は個人住宅建設に伴う緊急発掘調査である。対象地の地番は福岡県春日市小倉２丁目 73、90、91-1、92-1 番で、開発に先立ち埋蔵文化財事前調査依頼書が提出され、2008 年７月８日に確認調査を行った。その結果、対象地の一部に遺構が確認されたため、市費単独事業として本調査を実施することとなった。調査は土置き場の確保のため、反転して調査を行った。発掘調査は 2008 年８月６日から開始し、同年９月５日に終了した。

2　調査の組織

発掘調査を行った平成 20 年度、報告書刊行の最終的作業を行った平成 23 年度の調査の組織は以下のとおりである。

発掘調査（平成 20 年度）

教　育　長　山本　直俊
部　　長　簑原　三郎
文化財課長　古賀　俊光
文化財課長補佐兼管理係長
　　白水　心子
管　理　係　主　　査　塩足　雅弘
　同　　主　　事　山田ひとみ
文 化 財 係　係　　長　平田　定幸
　同　　主　　査　吉田　佳広
　同　　主　　査　森井千賀子
　同　　主　　任　井上　義也
　同　　嘱　　託　吉田　浩之
　同　　嘱　　託　長谷部真弓

報告書作成 (平成 23 年度)

教　育　長　山本　直俊
部　　長　古賀　俊光
文化財課長　広瀬　貴之
文化財課長補佐兼管理担当係長
　　平田　定幸（～４月）
統 括 係 長　中村　昇平（5 月～）
管 理 担 当　主　　査　増永　睦司
　同　　主　　任　山田ひとみ
　同　　主　　事　佐伯　廣宣
文化財担当　係　　長　中村　昇平 (～４月)
　同　　主　　査　吉田　佳広
　同　　主　　査　森井千賀子
　同　　主　　任　井上　義也
　同　　嘱　　託　柳　　智子
　同　　嘱　　託　島津屋幸子
　同　　嘱　　託　上原　あい

Ⅱ　遺跡の位置と環境

堂園遺跡は福岡県春日市小倉２丁目に所在する。福岡平野の南側に位置する牛頸山から北へ延びる春日丘陵上に位置する。この春日丘陵の中央部で、丘陵を東西に隔てる谷部の北側に面した小丘陵の斜面にあり、標高 34 m前後を測る。

春日丘陵は細かく見ると樹枝状の小さな丘陵と谷部からなり、この小丘陵上に弥生時代の遺跡が展開する。特に春日丘陵の北部とその周辺に弥生時代の遺跡が密集しており、これらを総称して須玖遺跡群という。その範囲は南北約２km、東西約 1.5 ～２km に及び、須玖遺跡群からは青銅器生産関連遺物等が多数出土し、質、量ともに卓越した内容であることから、弥生時代中期から後期末頃にかけて奴国の中心部であったと考えられる。

当遺跡は昭和 30 年代頃に造成され、地形は大きく変化しているが、それ以前の写真を基に復元された古地形図によると当遺跡は畑として利用されており、小丘陵は高い所で標高約 40 m前後、春日丘陵を東西に隔てる谷部の標高は約 32 m前後であり、傾斜の急な斜面下の畑であったといえる。

昭和 37 年以降に発行された「春日町埋蔵文化財出土分布図」には、仁王手 A 遺跡と堂園遺跡のちょうど中間部分で、現在の小倉コミュニティ供用施設の北西側に弥生時代の遺物が出土した記号が印されている。春日市内で発掘調査が行われたのは須玖岡本遺跡の事例を除けば、昭和 35 年以降に福岡教育委員会を調査主体とした大南遺跡の発掘調査が行われていることから、この「春日町埋蔵文化財出土分布図」は表採、もしくは工事中の不時発見によって遺物が確認されたことに基づき作成されたと思われる。その後、昭和 52 年の４月と６月に表採された弥生土器と須恵器の資料が当資料館に保管されており、ラベルに「小倉窯跡」とある。表採された詳しい場所は不明であるが、現在の小倉コミュニティ供用施設付近で、その状況や表採された資料から窯跡の存在が想定されていたようである。

この他、周辺の遺跡には北側の丘陵上に弥生時代後期の鉄器工房である仁王手 A 遺跡がある。東南側の小丘陵上には弥生時代から歴史時代の集落であるナライ遺跡がある。ナライ遺跡で検出された竪穴住居跡 52 軒のうち弥生時代のものは 30 軒以上と推察されており、出土遺物から弥生時代の集落は中期中葉には形成されていたと考えられている。（註1）南側の小丘陵上には金付遺跡がある。金付遺跡は堂園遺跡との間の谷部しか調査されていないが、弥生土器や木器が多く出土していることから、小丘陵上に集落の存在が想定される。また、金付遺跡は甕棺墓も存在していたといわれている。（註2）金付遺跡のさらに南側の大南遺跡は弥生時代中期から後期の住居跡とこの集落を取り囲む環濠が検出された。環濠から出土した遺物で特筆されるものには完形の広形銅戈鋳型があるが、最近の整理作業で坩堝／取瓶が確認されたことから、当遺跡でも青銅器生産工房跡が存在した可能性が高い。西南西側に位置する大南Ｂ遺跡は、弥生時代後期前半の竪穴住居跡から銅矛中子、鞴羽口が出土しており、青銅器生産に関係する集落の一部であるといえる。（註3）

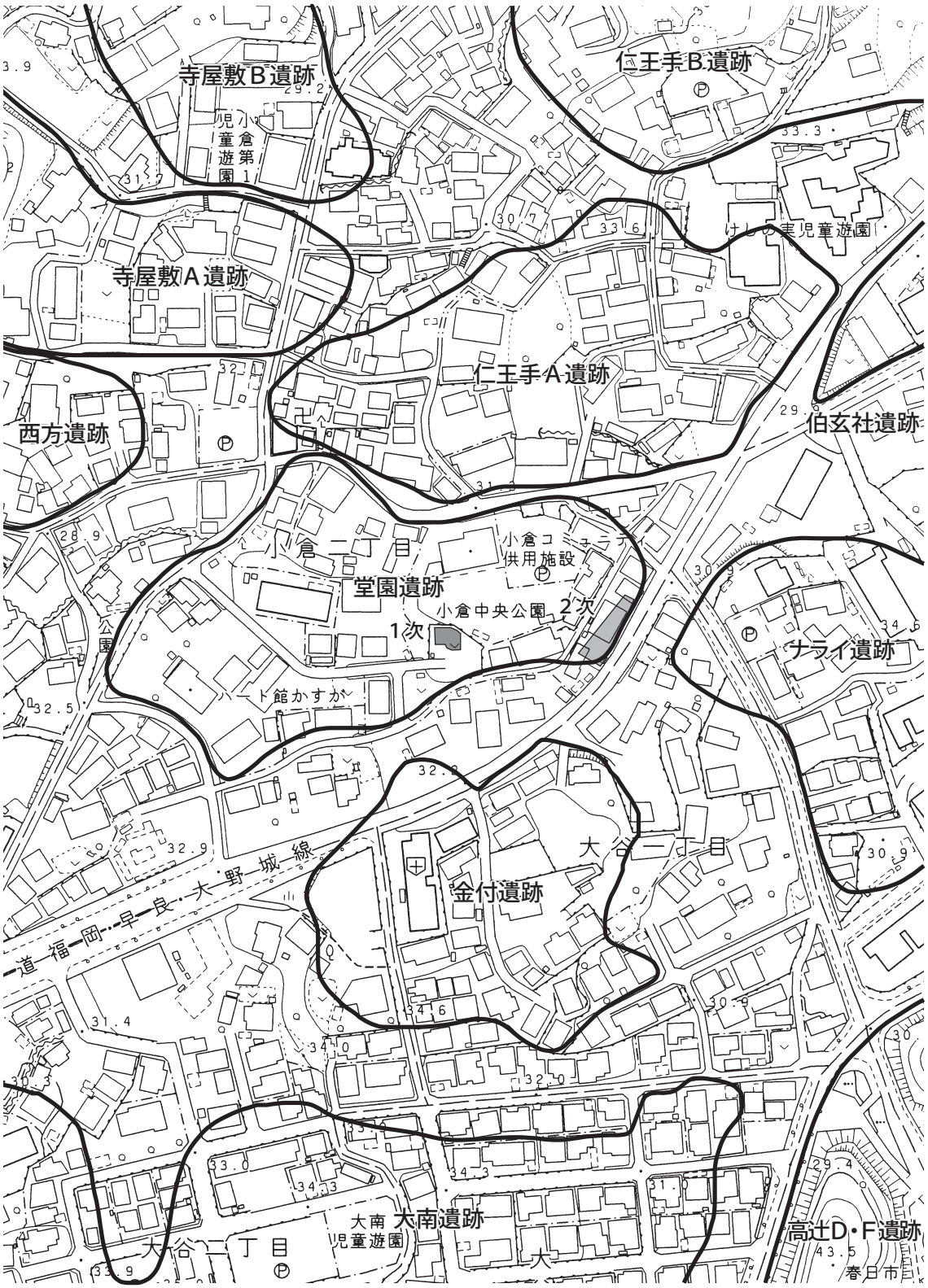
（註1）　春日市史編纂委員会編「第２章弥生時代　第２節春日市中部の遺跡」『春日市史』上巻（1996）

（註2）　春日市教育委員会編「１．金付遺跡」『平成 21 年度　春日市文化財年報』（2011）

（註3）　春日市教育委員会編「大南遺跡Ｂ地点」（2004）（「大南遺跡Ｂ地点」は報告書刊行後、周知の埋蔵文化財包蔵地の追補訂正を行った際に、遺跡名を「大南Ｂ遺跡」に改めた。）

1 下大荒
2 須玖黒田
3 須玖楠町
4 三十六
5 須玖唐梨
6 智者ヶ本
7 須玖五反田
8 須玖永田
9 水町
10 須玖永田 B
11 須玖タカウタ
12 須玖坂本 B
13 須玖尾花町
14 上平田・天田
15 大荒
16 大坪
17 須玖岡本
18 須玖盤石
19 岡本ノ上
20 野添
21 草野
22 平若 A
23 上散田
24 岡本ノ辻
25 赤井手
26 平若 B
27 平若 C
28 柚ノ木 A
29 柚ノ木 B
30 クミイケ
31 石橋
32 竹ヶ本 A
33 竹ヶ本 B
34 竹ヶ本 C
35 西方
36 寺屋敷 A
37 寺屋敷 B
38 仁王手 A
39 仁王手 B
40 豆塚山
41 藤波
42 大南 B
43 堂園
44 伯玄社
45 サヤノマエ
46 ナライ
47 松添
48 宮の下
49 飛脊
50 一の谷 A
51 一の谷 B
52 一の谷 C
53 原田 B
54 原田 C
55 トバセ
56 林田
57 大南 A
58 大谷
59 原田 A
60 高辻 A ～ C
61 高辻 E
62 高辻 D・F
63 ヲビラオ
64 小倉池ノ下
65 西平塚
66 西ヶ浦
67 立石
68 先ノ原 B
69 先ノ原 A
70 小倉水城跡
71 小倉新池
72 ケン牛
73 比恵尻
74 金付
75 駿河 D
76 原町
77 駿河 A
78 駿河 B
79 駿河 E
80 春日公園内
81 九州大学・御供田
82 前ノ原
83 春日水城跡
84 大牟田池窯跡
85 惣利 1 号窯跡
86 惣利
87 惣利北
88 惣利西
89 惣利東
90 向谷北
91 向谷
92 向谷西
93 向谷古墳群
94 向谷南
95 春日平田北
96 中ノ原
97 御陵
98 野藤
99 浦田
100 上ノフケ
101 林添
102 古野ノ上
103 川久保
104 川久保 B
105 下ノ原
106 下立頭
107 重久
108 天神免
109 寺田池北
110 古水
111 石尺
112 寺田・長崎
113 日拝塚
114 辻畑
115 中白水
116 門田
117 柏田
118 下原
119 天神ノ木
120 向野
121 天神山水城跡
122 池ノ内
123 大土居水城跡
124 重久 B
125 警弥郷 B 遺跡群
126 弥永原遺跡群
127 曰佐遺跡群
128 横手遺跡群
129 笠抜遺跡
130 寺島遺跡
131 井尻 B 遺跡群
132 井尻 C 遺跡群
133 三筑遺跡群
134 麦野 C 遺跡群
135 南八幡遺跡群
136 雑餉隈遺跡群

第 1 図　堂園遺跡周辺遺跡分布図（1 /25,000）



第２図　堂園遺跡位置図（1/2,500）

第３図　旧地形復元図による調査位置図（1/2,500）

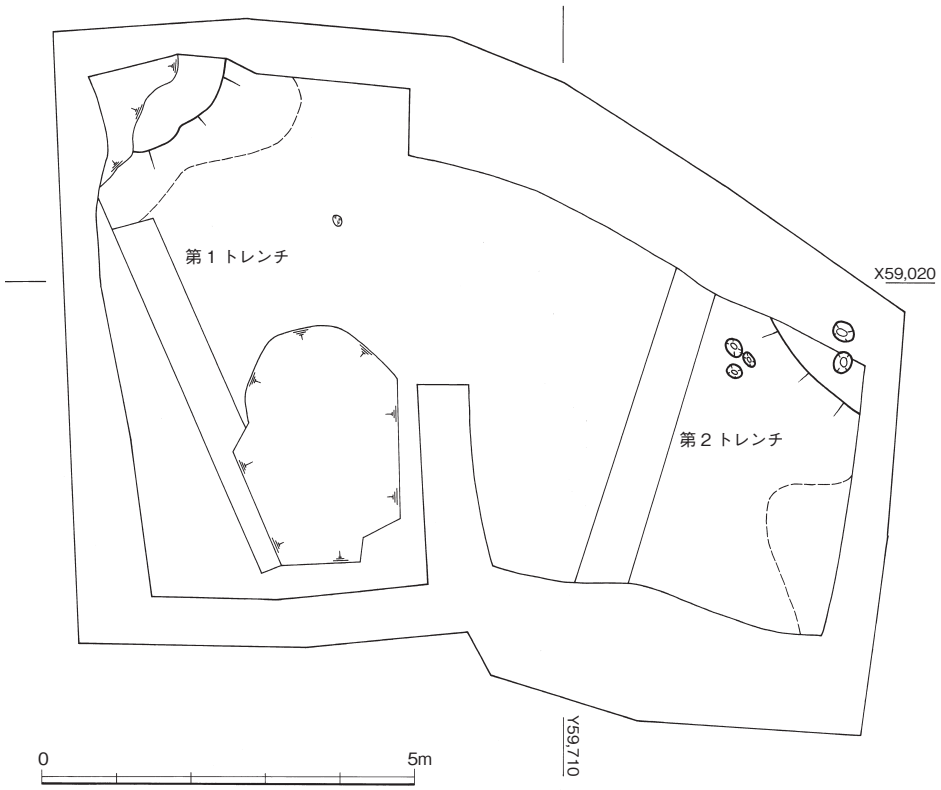
Ⅲ　調査の内容

1　調査の概要

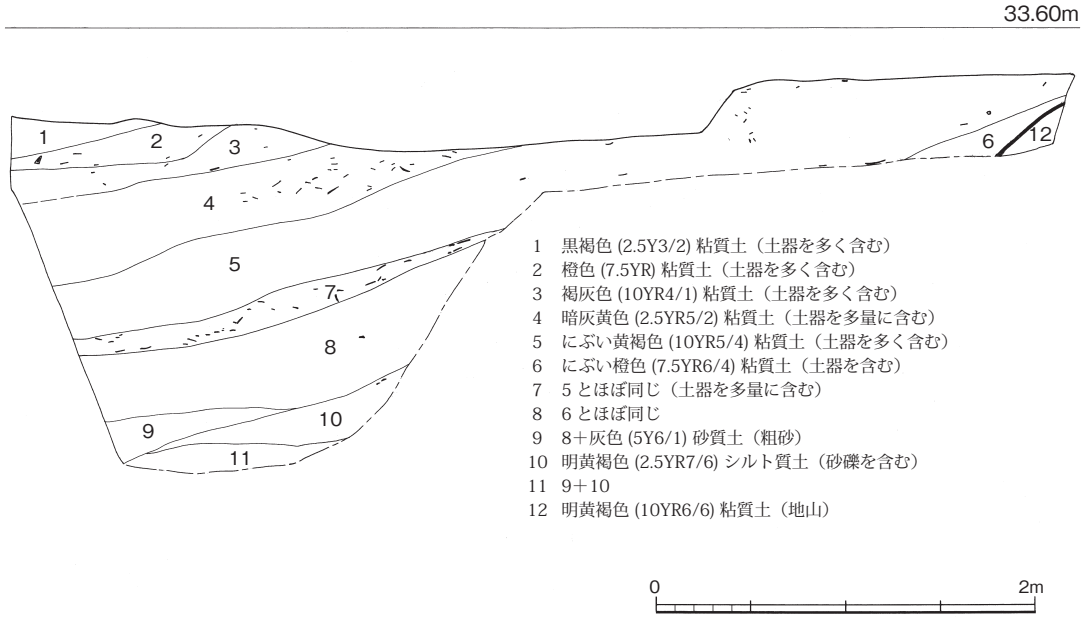
堂園遺跡は確認調査において遺構がみられた北西部分を調査対象範囲とした。範囲が狭小であり、土置き場の確保のため、反転調査を行った。

調査対象範囲内で確認された遺構はピットのみで、調査区の北東側に限られる。他はすべて包含層である。遺構検出にあたって地山が調査区の北西部にしか確認できなかったことから、この地山に直交する方向にトレンチを設定し地山を追うことにしたが、包含層の堆積が厚く、限られた期間と費用で調査をするには人力では困難であると想定されたため、重機で包含層を掘削することにした。しかし、包含層に含まれる遺物が多かったことから慎重に作業をすすめた。その後、対象面積が狭小であることと、旧地形が南に下がる急傾斜であったことから、重機による掘削も限度があり、調査区のほとんどは地山に達することができなかった。地山を検出した範囲については、遺構配置図で波線を引いたところまでである。調査は安全面を考慮しながら可能な深さまで掘削し、遺物の取り上げと土層の記録に努めた。

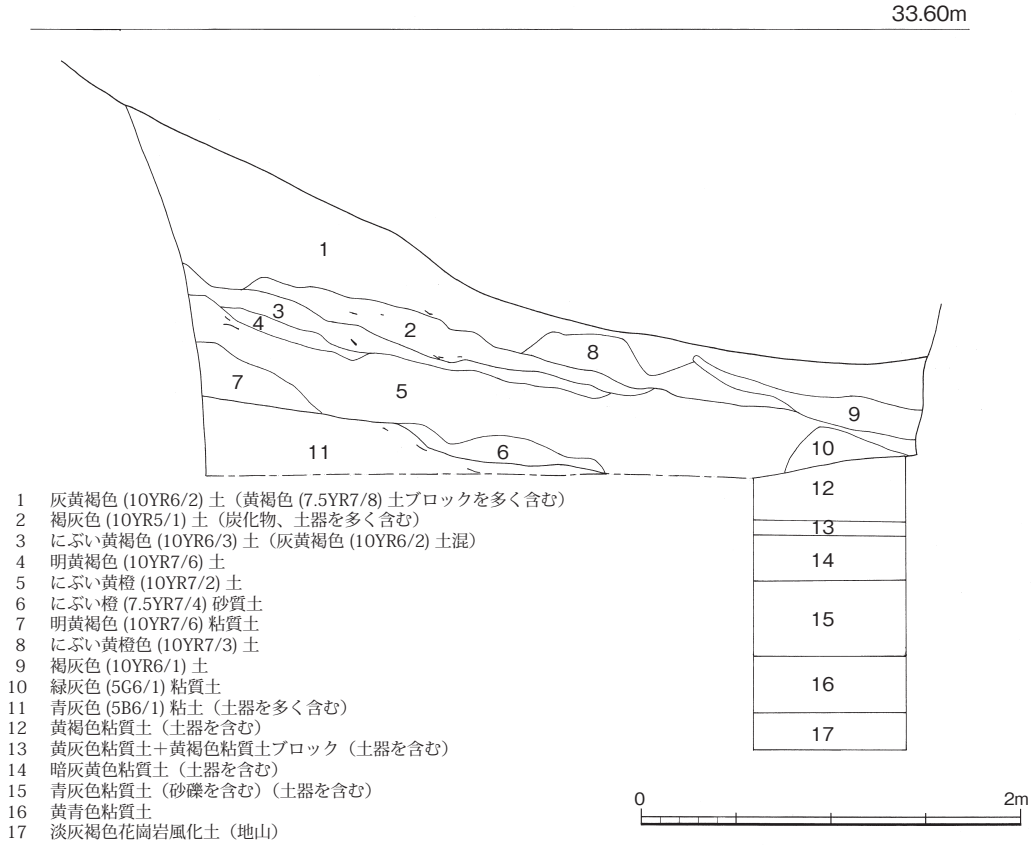
今回の調査で確認されたピットは５基であり、このうち４基から遺物が出土したが、いずれも細片



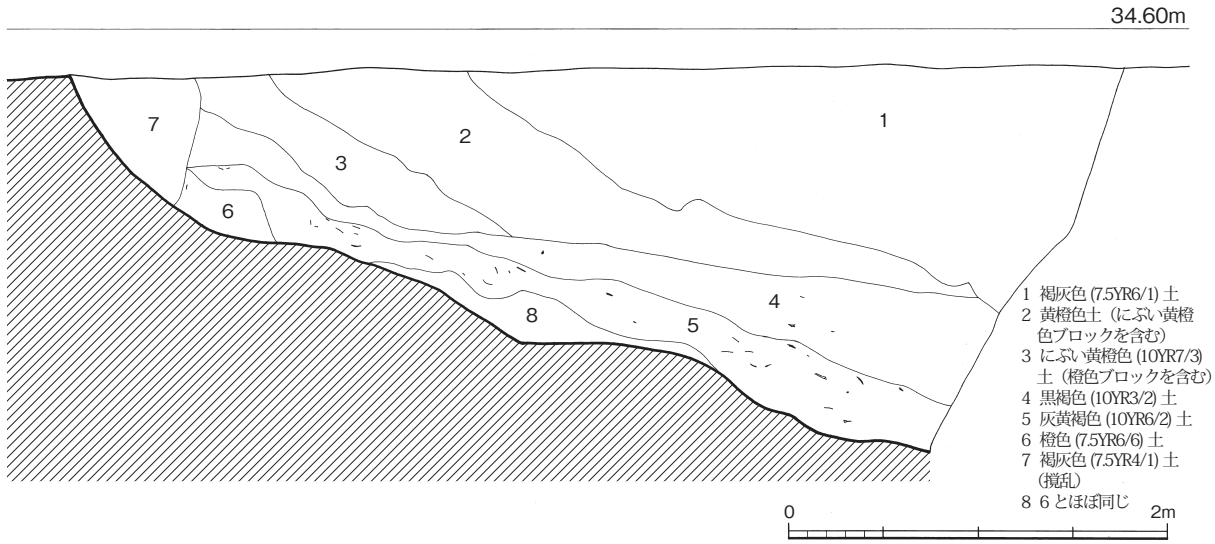
第４図　堂園遺跡１次調査遺構配置図（1/100）



第５図　調査区西側第１トレンチ土層断面実測図（西壁）（1/40）



第６図　調査区東側第２トレンチ土層断面実測図及び模式図 (東壁)（1/40）



第７図　調査区東側東壁土層断面実測図（1/40）

でかつ磨滅しており、時期の特定はできない。また、ピットは包含層上から掘られたものである。

反転前の調査区西側は、調査区の現地表面から深さ約 50 ～ 80cm で西北隅のみに地山が確認され、南東方向に低く傾斜しながら包含層が堆積する。地山に直交して第１トレンチを設定した。トレンチを深さ 50cm まで人力で掘り下げ、以下は重機でトレンチの南部を掘り下げた。土層断面図実測図には掲載していないが、現地表面から約 3m の深さ（標高約 31.05 m前後）で砂礫を多く含むオリーブ灰色粘質土の地山を確認した。包含層も一様に遺物を包含しているのではなく、２～４層、７層に多く包含している。

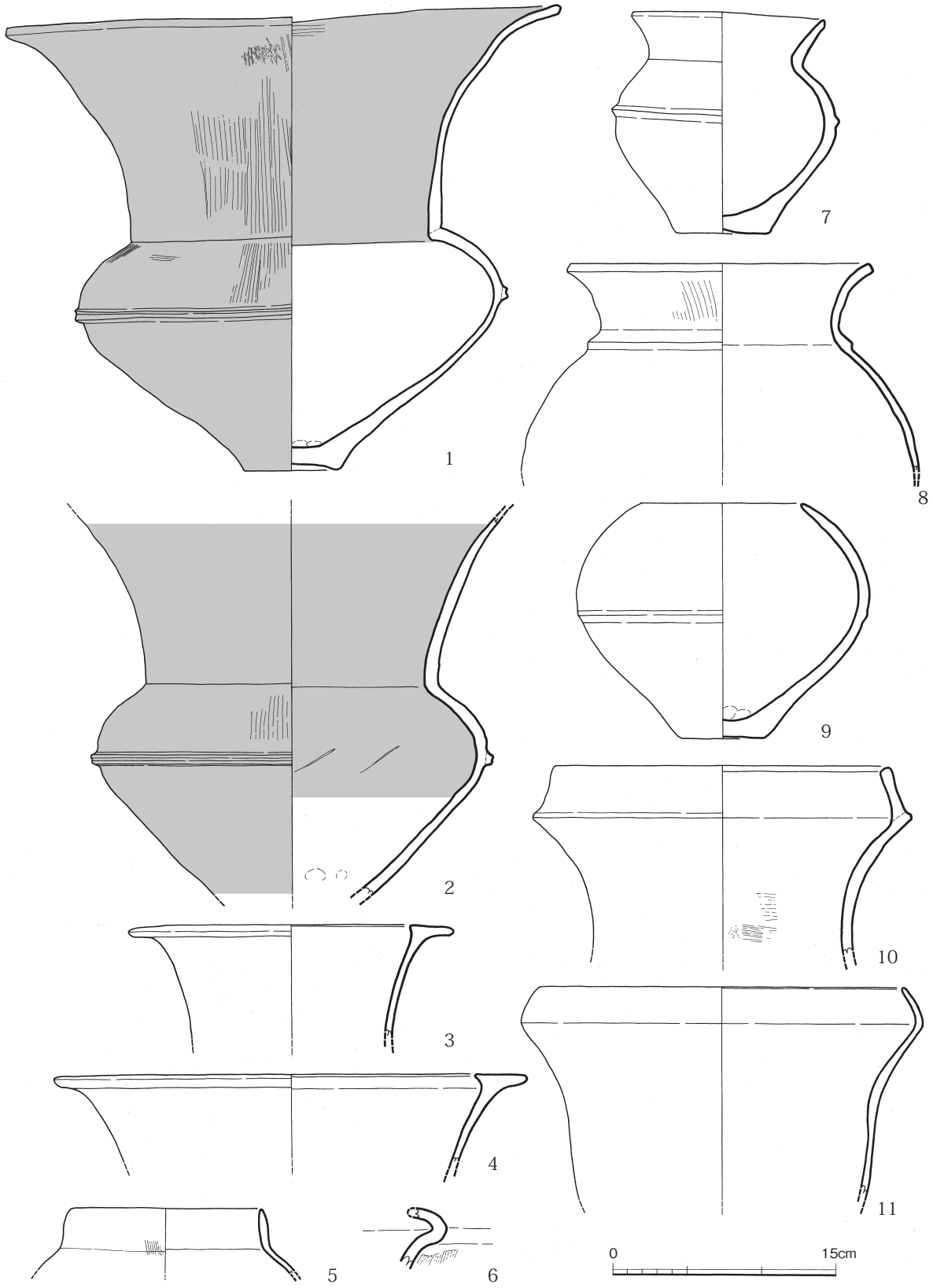
反転後の調査区東側は、調査区の北東隅において現地表面から深さ約 30cm 前後でピットが確認されたため、この面での遺構検出を行った。しかし、遺構はこれ以降確認されなかったため、包含層を掘り下げたところ、調査区の南東隅では現地表面から深さ約２m前後で地山に達した。地山は西方に小さく張り出しており、一様な急斜面ではないようである。調査区東側東壁土層実測図（第７図）の１～３層は近年の造成による埋土と思われる。５層に最も多くの遺物が含まれていた。反転後も人力で面的に地山に達することは困難であったため、南北方向に第２トレンチを設定し、標高 31.3 m まで人力で掘り下げたが、これより下は重機で下げたところ、標高約 30.1m で淡灰褐色花崗岩風化土の地山に達した。このトレンチ内を重機で下げた際に採集できた遺物のほとんどが弥生土器である。

２　出土遺物

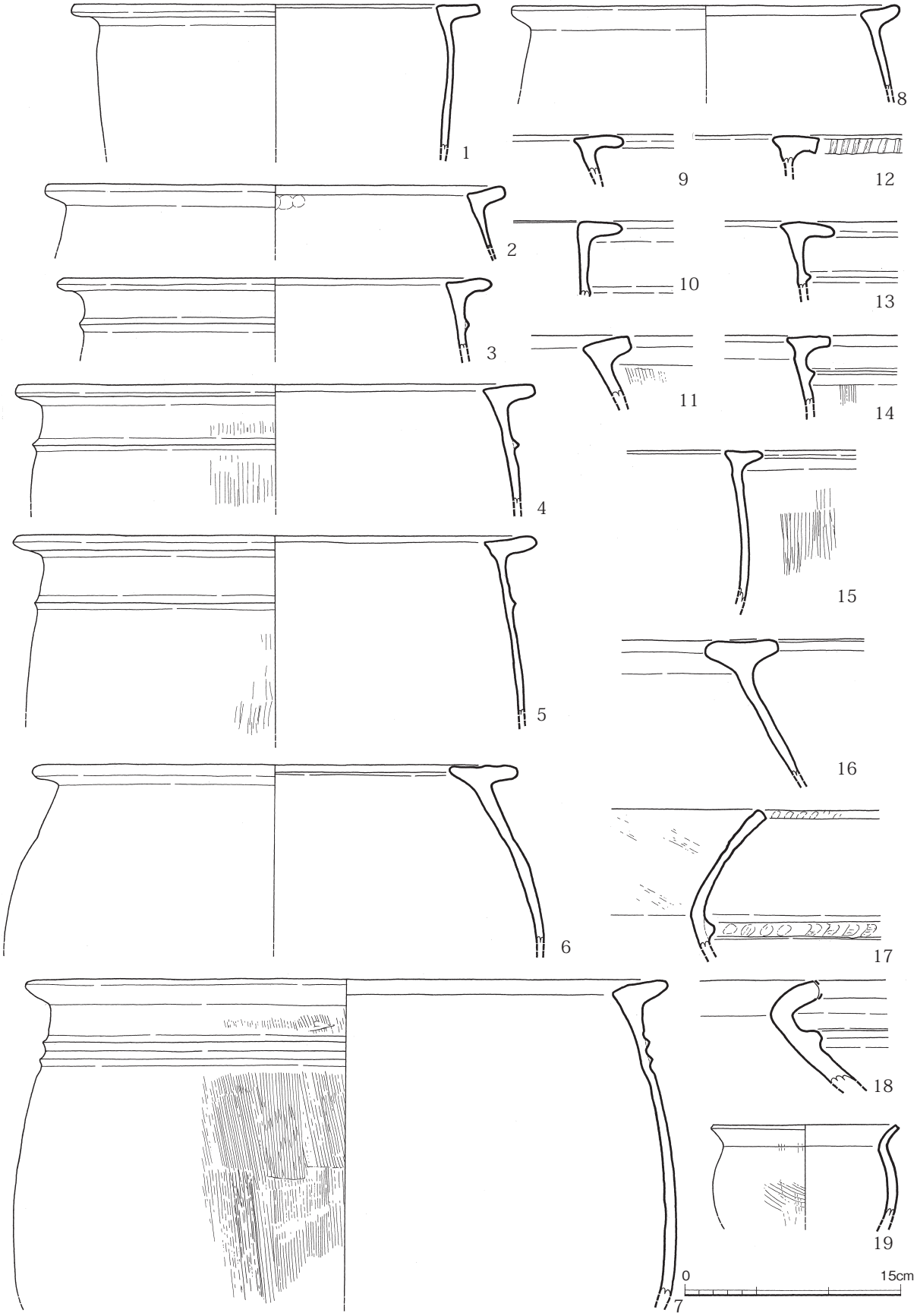
（１）土器・陶磁器（図版４・５　第８～ 15 図）

弥生土器（図版４・５　第８～ 11 図）

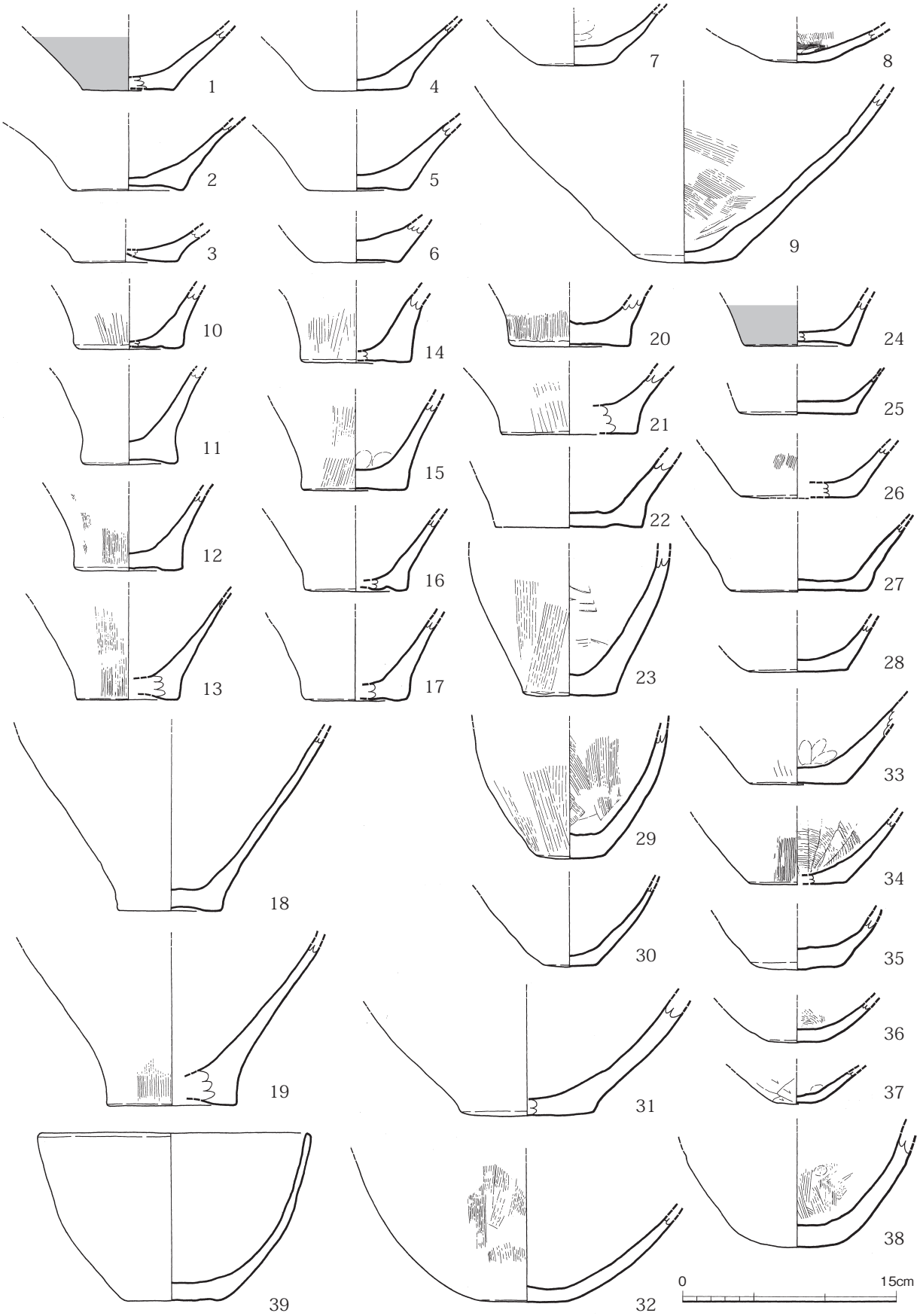
弥生土器は、壺、甕、鉢、蓋、甑が出土した。第８図の１～ 11 は壺で、１～４は広口壺、５は短頸壺、６は袋状口縁壺、９は無頸壺、10、11 は複合口縁壺である。１は口縁部外面に斜格子状に暗文を施している。また、胴部にはM字突帯があり、突帯から上部に細線を６箇所に刻んでいる。２も１と同



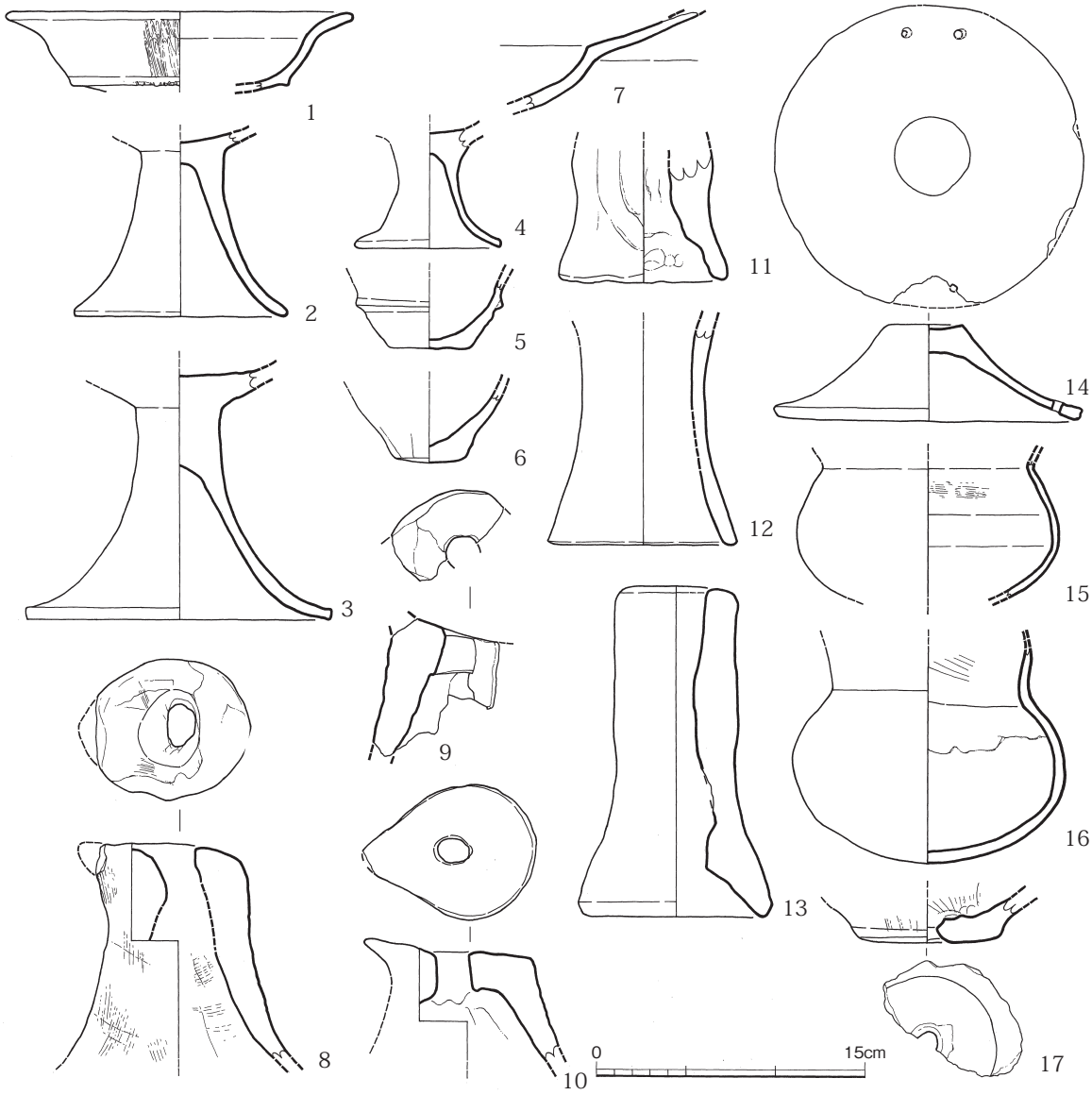
第８図　弥生土器実測図①（1/4）



第９図　弥生土器実測図②（1/4）



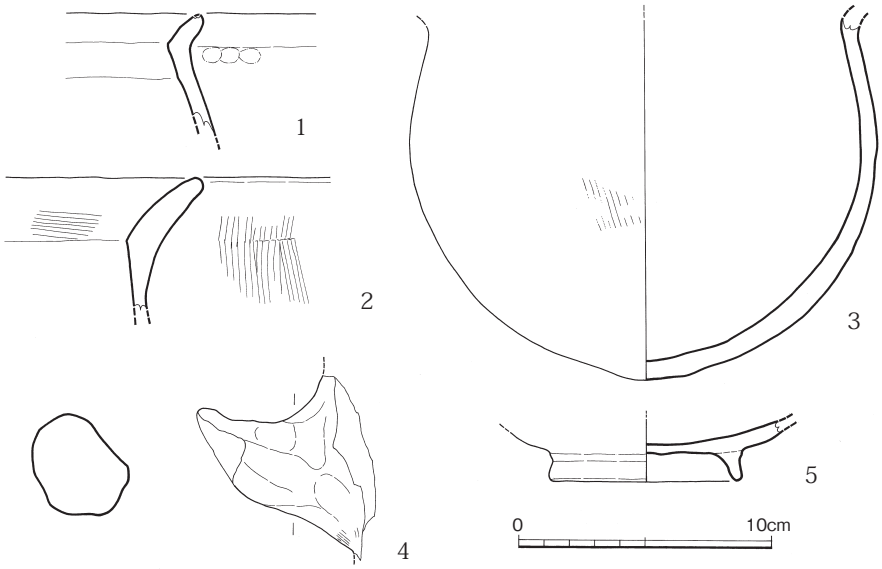
第 10 図　弥生土器実測図③ (1/4)



第 11 図　弥生土器実測図④（1/4）

様に胴部のＭ字突帯から上に細線を施している。また胴部内面には工具があたったと思われる痕跡が等間隔にみられる。１、２とも丹塗りである。８は器壁の摩滅が著しいため不明瞭ではあるが、口縁端部に刻み目を施している。３～５、11 は第１トレンチの５層、１、２は７層から出土した。９は第２トレンチの５層から出土したが、１層から出土した破片と接合した。９の壺は広口壺の口頸部がない形状であり、端部を丸く仕上げている。10 は下大隈式で口縁の複合部分が直線的に内側へ傾く。11 は口頸部の頸部に近い部分がやや内湾しているが焼ひずみによるものか。

第９図の１～ 18 は甕で、６、16 は鋤先形口縁であるが、逆Ｌ字形で口縁部下に断面三角形の突帯を持つものが多くみられる。７は口縁部下に断面三角形の突帯を２条めぐらす。12 は口縁端部に刻み目がみられる。17 は口縁が外反しながら直線的に立ち上がり、口縁端部と頸部の突帯には刻み目がある。１、４、５、７は第２トレンチの 11 層から出土した。１は第２トレンチの１層出土の破



第 12 図　土師器実測図 (1/3)

片と接合した。19 は小型の甕である。

第 10 図は底部で、１～９は壺、10 ～ 38 は甕である。１～６はやや上げ底で、７～９は底部側面がわずかにくぼみ不安定な平底である。39 は鉢である。

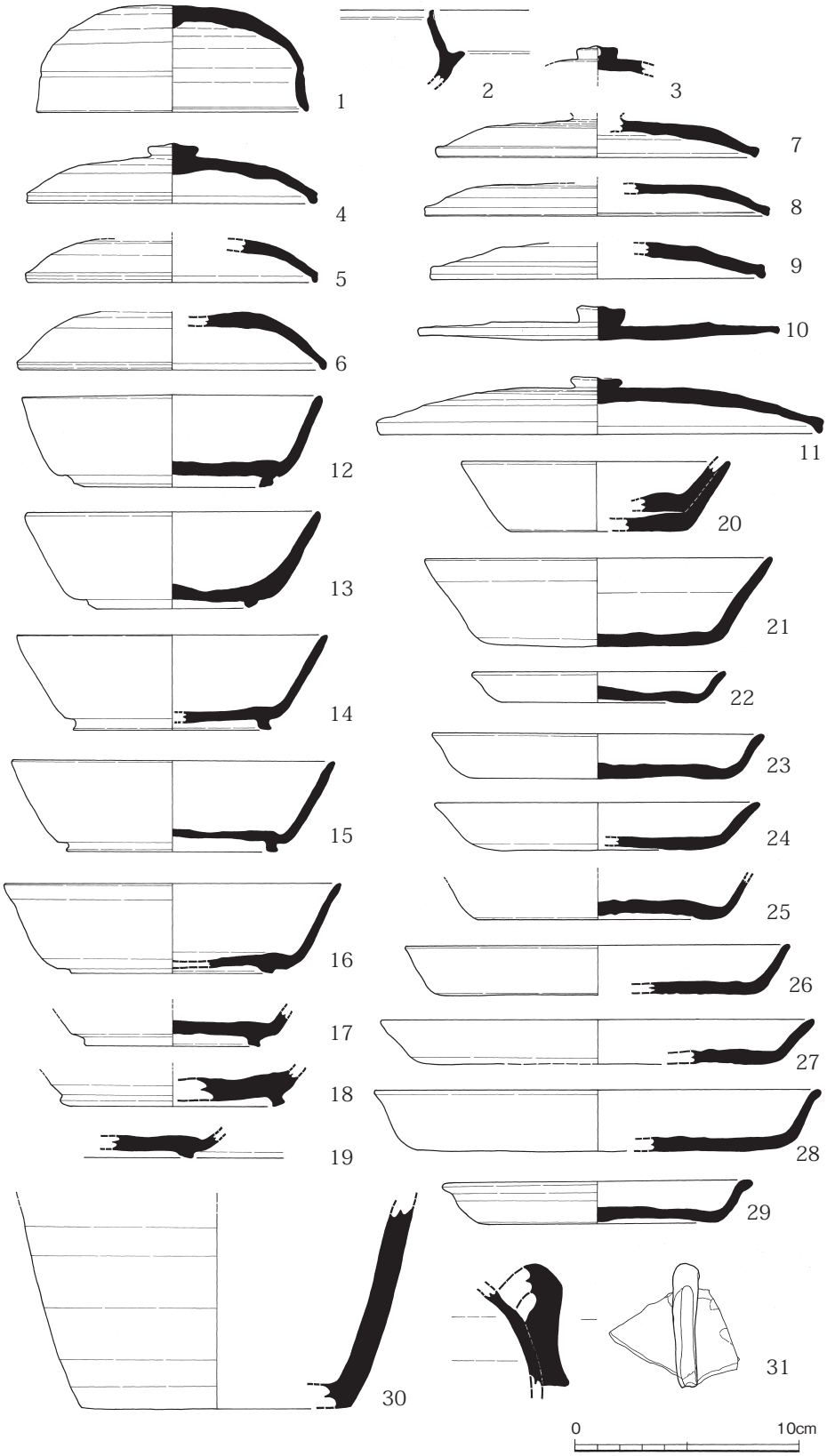
第 11 図の１～４、７は高坏、５、６は小型の鉢、８～ 10 は支脚、11 ～ 13 は器台、14 は蓋、15、16 は壺、17 は甕である。１は坏部の破片であるが、口縁部は外傾し、坏部の屈曲部には突帯があり刻み目を施している。２～４は高坏の脚部で､脚裾部は外反しながらひらく。７は坏部が丸く、坏部と口縁部の境界が明瞭である。ここでは高坏としたが、脚部のない鉢の可能性もある。５は体部に断面三角形の突帯あり。８～ 10 の支脚は上端部の一端を斜め上方に突き出したタイプである。12 は鼓形の器台、13 は両端が外側に開かず、片方を直線的に仕上げている。14 は短頸壺とセットになる蓋で、口縁部に２ヶ所穿孔あり。15、16 は直口壺の胴部～底部である。17 は底部に焼成前の穿孔があり、甑として使用されたと考えられる。

土師器（図版５　第 12 図）

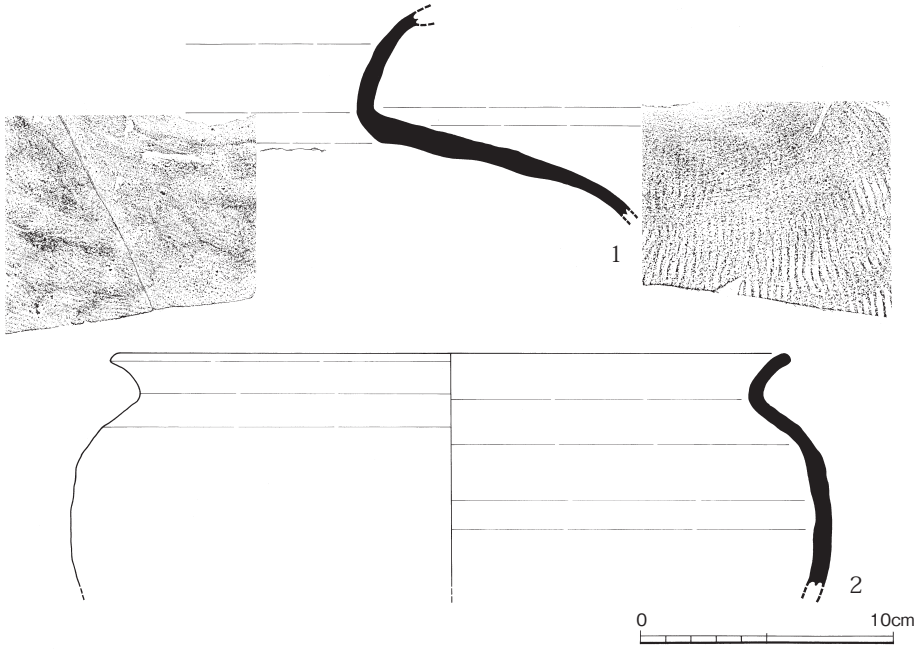
第 12 図は１～３は甕、４は甑の取手、５は椀である。１は口縁部が短く､頸部外面に指圧痕が残る。２は内面の口縁部と胴部の境界が明瞭で、口縁部内面にヨコハケを施す。３は小型の甕で、胴部中央に最大径がある。５は土師器椀の高台部の破片である。

須恵器（図版５　第 13・14 図）

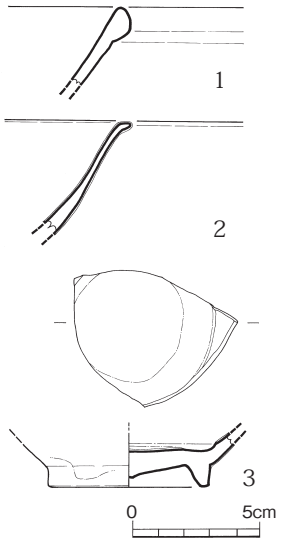
第 13､14 図は須恵器で､第 13 図の１は古墳時代の坏蓋､２は坏身､３～ 31 は奈良時代の須恵器で、３～ 11 は蓋、12 ～ 21 は坏、22 ～ 29 は皿、30、31 は壺、第 14 図の１は大甕、２は壺である。第 13 図の１は口縁部と体部の境に沈線があり、口縁端部の内面に段を有する。外面は約１/２以上回転ヘラケズリを施し、天井部内面には同心円状の当て具痕あり。２は口縁部から受け部の破片で、口縁部は直線的に外傾する。口縁端部の内面に段を有する。３～ 11 の坏とセットになる蓋は天井部



第 13 図　須恵器実測図①（1/3）



第 14 図　須恵器実測図②（1/3）



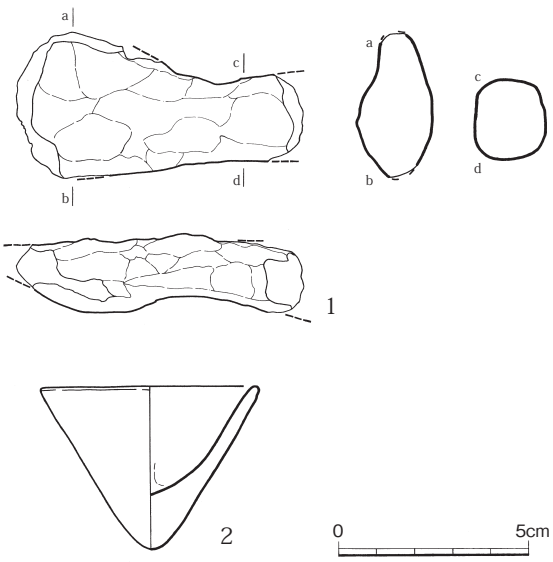
第 15 図　陶磁器実測図（1/3）

につまみがあり、口縁端部は内側に折曲げるものと、８のように折り曲げないものがある。10 は焼けひずみにより、体部から口縁部にかけて外側に反っている。口径は 13 ～ 15cm 前後のものが多くみられる。坏はいずれも口縁が直線的に立ち上がる。20 は２個体が溶着している。皿も口縁が直線的に立ち上がるが、28、29 は口縁端部が外反する。30 は瓶の胴部下半の破片で、31 は双耳瓶の耳部分の破片である。１は第５図５層から出土。９、10、12 ～ 15、28、31 は第７図４層から出土、５、16 は５層から出土した。３、19 は第６図５層から出土した。

第 14 図１は大甕の頸～胴部上半にかけての破片で、胴部外面はタテ方向のタタキ目があり、内面は無文の当て具痕あり。２の壷は口縁部を短く外反させるタイプで、胴部上半に最大径あり。２は第７図４層から出土した。

陶磁器（第 15 図）

第 15 図１～３は白磁の碗で、１～３とも胎土は灰白色で釉は灰オリーブ色を呈する。１は玉縁口縁で､貫入がみられる。２の口縁部は屈曲し上端部が水平である。体部外面にピンホールがみられる。３は底部の破片で釉は灰白色であり、内面見込みには釉を掻きとっている。１は大宰府陶磁器分類のⅣ類、２はⅤ類、３はⅧ類にあたる。



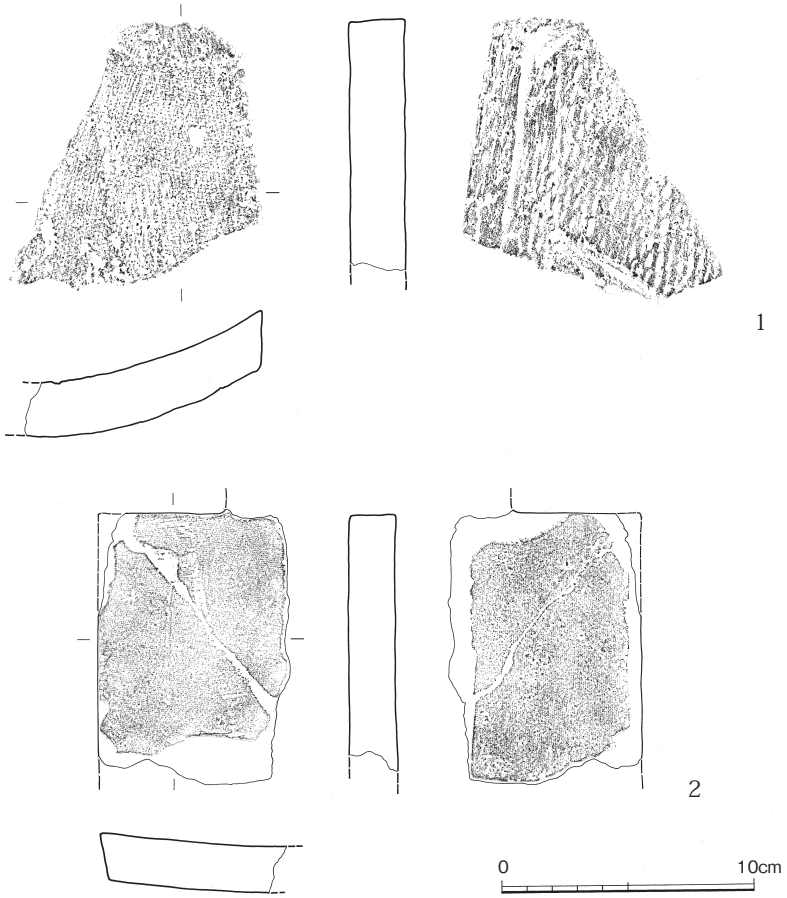
第 16 図　土製品実測図（1/2）

（２）土製品（図版 6　第 16 図）

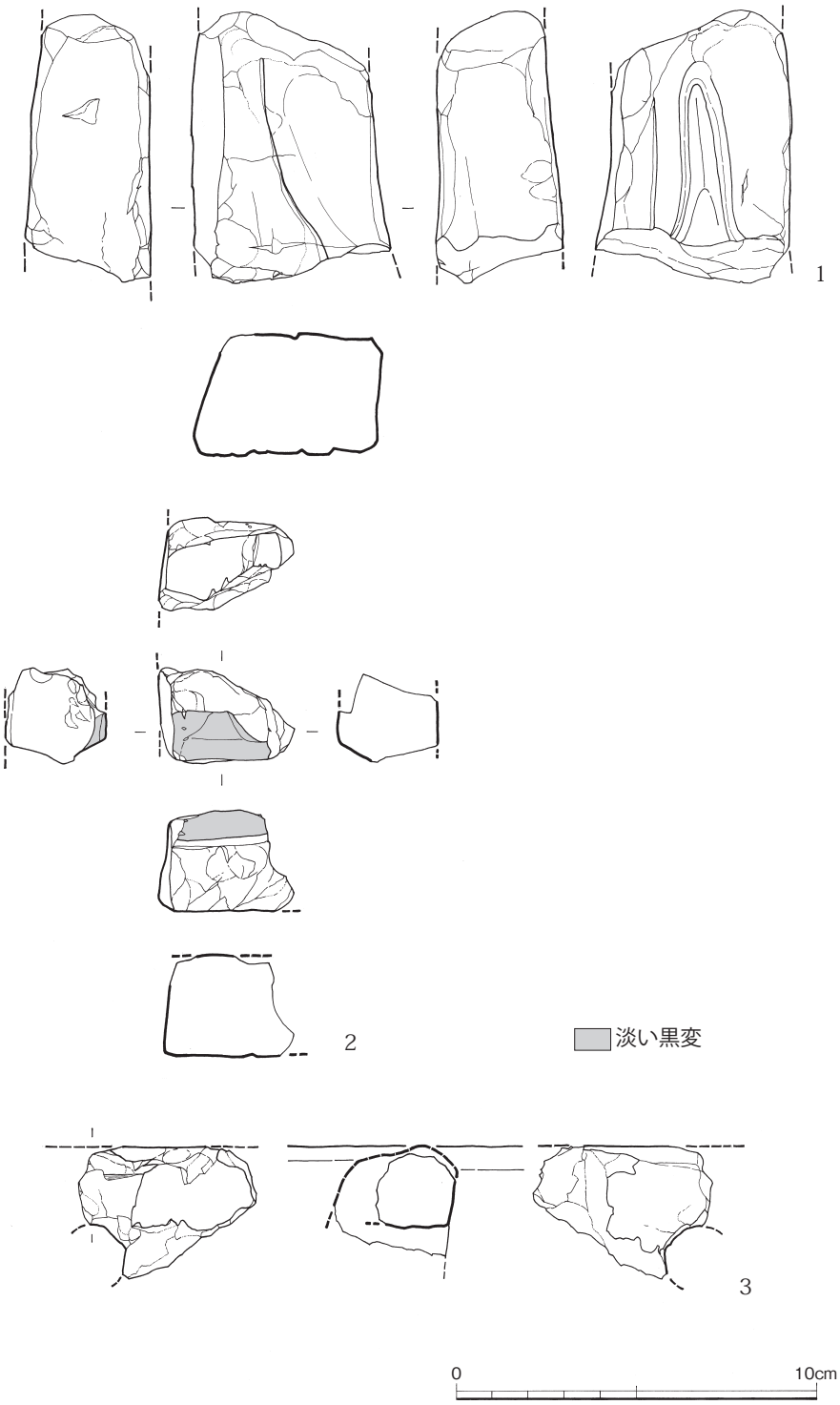
１の外形は匙状であるが、匙部分は凹まずやや膨らんでいる。現存長 7.6cm を計る。用途不明。２は手捏ね土器であるが、底部が丸みを帯びながら尖っており、底部から口縁部にかけて直線的に開く。

（３）瓦（図版 5　第 17 図）

１は平瓦で側面の破片である。凸面は縄目タタキ、凹面は糸切りの上に布目痕あり。２は桟瓦か。



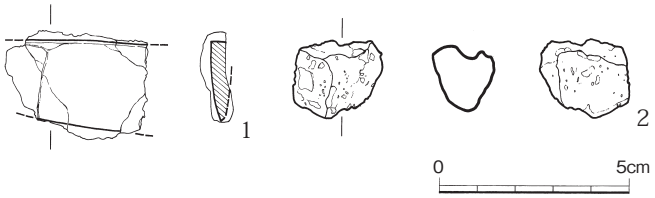
第 17 図　瓦実測図（1/3）



第 18 図　青銅器生産関連遺物実測図（1/2）

（４）青銅器鋳造関連遺物（図版６　第 18 図）

１、２は青銅器の石製鋳型で、１は調査区西北部の遺構検出時に出土した。砥石に再利用されているため彫り込みが明瞭ではないが、銅矛の関部分と考えられる。この銅矛の型がある面と反対側の面には、樋のような溝状の彫り込みと側面に平行する段状の加工がみられる。この面以外は平滑であり、砥石として再利用されている。２は銅戈の胡部分である。胡部分には淡い黒変がみられる。調査区東側の第６図５層から出土した。１、２とも石材は石英長石斑岩で、きめが細かく乳白色を呈する。３は細片のため断定はできないが、坩堝／取瓶と思われる。口縁部で口縁端部から約 2cm のところに焼成前の穿孔があり注口部分か。内外面ともナデによる調整が施され、口縁端部は指圧痕があり内側がやや凹む。褐～褐灰色を呈するが、被熱による変色等の痕跡はない。口縁部外面にわずかに植物の繊維質と思われる圧痕がみられる。



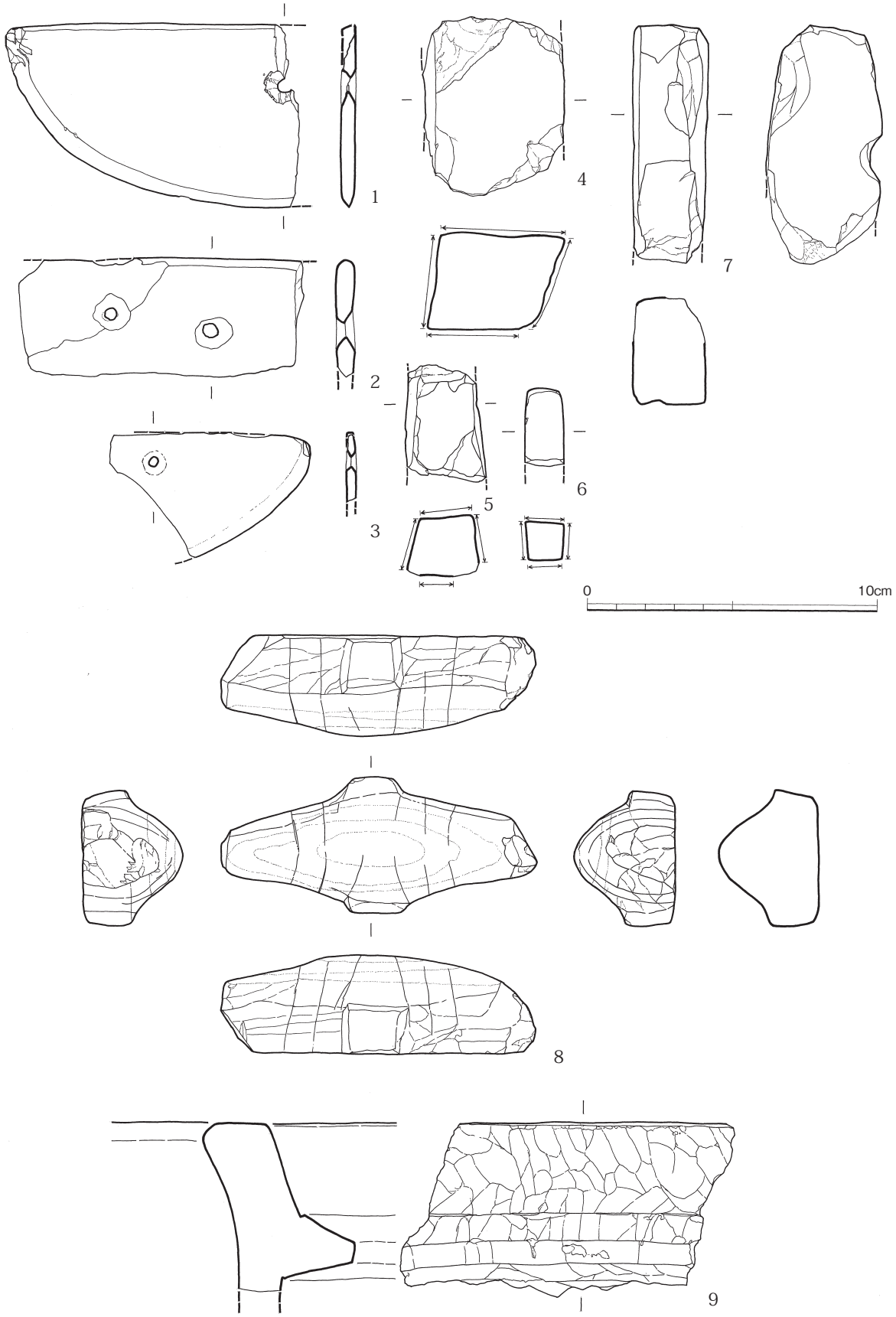
第 19 図　鉄器・鉄滓実測図（1/2）

（５）鉄器類（図版６　第 19 図）

１は鉄鎌で、残存長 3.75cm、残存幅 2.5cm を計る。２は鉄滓で、長さ 2.05cm、幅 2.35cm、重さ 8.3g である。不定形で気孔が多くみられる。

（６）石器（図版６　第 20 図）

１～３は石庖丁、４～６は砥石、７は柱状抉入片刃石斧、８は把頭飾、９は石鍋である。１は孔端 9.0cm で最大厚は背部にある。刃部と背部は丁寧に磨かれており、孔の縁に穿孔時のものと思われる敲打痕がある。２は全体的に摩滅が著しく、背から孔にかけて残存し刃部を欠損する。孔の内径は（右）4.1mm ～（左）4.6mm、外径 (右)12.0mm、孔間 35.0mm、背高 (右)22.4mm である。最大厚は背～孔の間である。６は砂岩製の砥石で、残存長 2.6cm、最大幅 1.4cm、最大厚 1.4cm を計る。断面はほぼ正方形で、四面とも砥石として使用されている。８の把頭飾は調査区東側の包含層を重機で掘削中にみつけたため正確な位置はわからないが、およその位置は調査区東北部で第７図５層からである。全長 10.9cm、高さ 3.5cm、最大幅 4.7cm を計る。断面は楕円形を短辺で半裁した形に方形の突出部を削り出している。底部の平面に直交する方向に突出部を挟んで３ヶ所に細線を刻んでいる。また、全長の両端も特に底面近くは磨かれている。９は滑石製の石鍋で、口縁端部から外面突帯にかけてケズリ調整、内面は端部を面取状に削り後ミガキ、それ以下はタテ方向のケズリ後ミガキ調整を施している。



第 20 図　石器実測図（1/2）

Ⅳ　まとめ

堂園遺跡１次調査は小丘陵斜面の包含層の調査である。調査区内では明確な機能を特定できる遺構を確認する事はできなかったが、包含層の存在から小丘陵上及び斜面地にかつて遺跡が存在した事が推測される。包含層に含まれていた遺物の時期は大きくは弥生時代中期から後期にかけてと奈良時代の２時期に分けられ、弥生時代の遺物は日常土器が主体である事から通常の集落、奈良時代の遺物には溶着し製品として流通しない須恵器が含まれることから須恵器窯跡の存在が想定される。

弥生時代中期から後期にかけての集落については、包含層より出土した遺物の大半は弥生時代中期後半の弥生土器で、最下層からは弥生時代中期後半の弥生土器が出土していることから、この頃に集落が形成されたと考えられる。

春日丘陵上に所在する須玖遺跡群を構成する集落では、青銅器生産関連遺物の出土がみられる。このことは丘陵上の各集落で分散的に青銅器生産が行われ、後期になると須玖岡本遺跡周辺の春日丘陵北部の低地に集結されていく。（註1）当遺跡においても、青銅器生産関連遺物が出土しており、須玖遺跡群内の集落遺跡と同様の状況が想定される。

奈良時代には須恵器窯跡が近くの斜面にあったと推定される。かつて当遺跡付近で採集された須恵器も同時期の８世紀中頃から後半のもので、そのほとんどが小型器種である。須恵器生産は牛頸窯跡群を中心に行われており、８世紀代の様相は小型器種の生産が盛んになり窯跡数も多く、牛頸窯跡群付近で数基程度の小規模な窯跡群が存在している。（註2）当遺跡は牛頸山山麓から若干距離がはなれているが、当遺跡においても小型器種が多くみられることから牛頸窯跡群の影響下におかれた生産であったと考えられる。

今回の調査は包含層の調査であり、調査面積も狭小であることから、かつて存在したであろう遺跡について想定するに過ぎない。須玖遺跡群が所在する春日丘陵上は宅地化しているため調査面積が狭小であることが多く、谷部の包含層は調査対象になることが少なかったが、最近では堂園遺跡２次調査や金付遺跡など谷部の調査例も増えつつある。さらに調査の増加に期待したい。

（註1）平田定幸・井上義也「須玖遺跡群」『考古学ジャーナル』No.611（2011）

（註2）石木秀啓「牛頸窯跡群と九州の須恵器生産体制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第134集（2007）

表１　　土器一覧表

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	器 種	出土位置	法量（cm）①口径②器高 ③底径④胴部最大径⑤脚裾部径	残存状態	調 整 及 び 特 徴	備 考
1	第８図	壺	第５図７層	①37.3②30.3③6.1④29.0	口縁～胴部下半にかけて約1/8 欠損	外面はヨコ方向のミガキ後細線を施す。口縁部付近タテ方向のミガキ。胎土は１㎜以下の石英、長石、雲母、赤色砂粒を多く含む。焼成はやや不良。色調は内外面ともに橙色～浅黄橙色。	丹塗り
2	第８図	壺	第５図７層	④(26.9)	口縁、頸部付近はほぼ残存。口縁端部は欠損。体部は 1/4 残存。	外面はミガキの後、縦方向の細線を施す。内面は磨滅のため調整不明。胎土は４㎜以下の石英、長石をわずかに含む。微細な雲母粒子もわずかに含む。焼成は良。色調は内外面ともに橙色～褐色。	丹塗り
3	第８図	壺	第５図５層	①(21.9)	口縁部 1/6	調整は不明。胎土は４㎜以下の石英、長石を含む。橙色粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに明黄褐色。	
4	第８図	壺	第５図５層	①(31.8)	口縁部 1/2	調整は不明。胎土は５㎜以下の石英、長石を含む。雲母、角閃石、橙色粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに橙色。	
5	第８図	甕	第５図５層	①(13.0)	口縁部 1/4	調整は内外面ともにタテハケ後ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成は良好。色調は内外面ともに橙褐色。	
6	第８図	壺	第５図７層		口縁部 1/8	調整は外面口縁部ヨコナデ、内面ナデ。胎土は３㎜以下の石英、長石を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
7	第８図	壺	第６図２～４層	①13.0②14.95③6.05④15.3	ほぼ完形	調整は外面ヨコナデ、内面不明。胎土は１㎜前後の石英、長石、雲母を含む。焼成はやや不良。色調は内外面ともに淡白色。	
8	第８図	壺	第５図3･4層	①(20.6)	口縁部 1/3	調整は外面タテハケ、内面不明。胎土は５㎜以下の石英、長石を非常に多く含む。焼成は不良。色調は外面にぶい橙～灰白色、内面明黄褐色。	
9	第８図	壺	第６図11層	①(10.7)②15.8③5.5④(19.6)	全体の 1/3	調整は突帯ヨコナデ、その他不明。胎土は６㎜以下の石英、長石を多く含む。微細な雲母をわずかに含む。やや密。焼成は良好。色調は内外面ともに橙～灰黄色。	
10	第８図	壺	包含層	①(22.6)	口縁部 1/5	調整は外面不明、内面横方向のハケ。胎土は0.5～３㎜程度の石英、長石、その他橙色を帯びた砂粒（石英か？）を多く含む。焼成やや不良。色調は外面橙色～淡橙色～淡褐色、内面明黄褐色～灰白色～暗褐色。	
11	第８図	壺	第５図５層	①(24.3)	口縁部 1/3	調整は不明。胎土は 0.5 ～５㎜程度の石英、長石を多く含み、1 mm 以下の雲母片もわずかに含む。やや粗。焼成良好。色調は外面黒灰色～灰白色、内面灰色。	
1	第９図	甕	第６図11層	①(28.4)	口縁部 1/4	調整は口縁部がヨコナデ、その他は調整不明。胎土は１～２㎜前後の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに橙色。	
2	第９図	甕	第６図11層	①(32.0)	口縁部 1/6	調整は口縁部がヨコナデ、その他は調整不明。胎土は３㎜以下の石英や、１mm 以下の長石を多く含む。橙色粒、雲母、角閃石を含み、やや粗い。焼成良好。色調は外面橙色、内面灰黄色～灰白色。	
3	第９図	甕	第６図１層	①(30.2)	口縁部 1/4	調整は口縁部がヨコナデ、その他は調整不明。胎土は３㎜以下の石英、長石等をやや多く含み、微細な雲母粒子も少量含む。やや密。焼成やや不良。色調は内外面ともににぶい橙色。	
4	第９図	甕	第６図11層	①(36.2)	口縁部 1/4	調整は口縁部がヨコナデ、胴部外面はタテハケ、突帯部はヨコナデ、内面は調整不明。胎土は２㎜前後の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成良好。色調は内外面ともににぶい黄橙色。	
5	第９図	甕	第６図11層	①(36.4)	口縁部 1/4	調整は口縁部がヨコナデ、胴部外面はタテハケ、突帯部はヨコナデ、内面は調整不明。胎土は１㎜前後の石英、長石、雲母を含む。焼成やや良好。色調は内外面ともに橙色。	煤付着
6	第９図	甕	第５図７層	①(33.7)	口縁部 1/3	調整は不明。胎土は１～３㎜以下の石英、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
7	第９図	甕	第６図11層	①(44.7)	口縁部 1/4	調整は口縁部がヨコナデ、胴部外面はタテハケ、内面は不定方向のナデ。胎土は４mm以下の石英、2㎜以下の長石を含む。雲母を含む。焼成良好。色調は内外面ともににぶい橙色。	煤付着
8	第９図	甕	第６図11層	①(27.0)	口縁部 1/6	調整は内外面ともにヨコナデ。胎土は５㎜以下の石英、１ mm 以下の長石を多く含む。橙色粒、雲母、角閃石を若干含み、やや粗い。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色～にぶい橙色。	
9	第９図	甕	第６図１層		口縁部小片	調整は不明。胎土は１㎜以下の赤色粒、石英、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰黄色。	
10	第９図	甕	包含層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナデ、その他は調整不明。胎土は１ mm 以下の長石、雲母をわずかに含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに淡黄色。	
11	第９図	甕	第６図11層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナデ、外面はタテハケ、内面は不明。胎土は５㎜以下の石英、長石を多く含む。微細な雲母を含み、やや粗い。焼成良好。色調は内外面ともに明黄褐色。	煤付着
12	第９図	甕	第６図11層		口縁部小片	調整は内面がヨコナデ、その他調整不明。胎土は３㎜以下の石英、長石をやや多く含む。やや粗。焼成良好。色調は外面灰白色～明黄褐色、内面淡茶褐色。	
13	第９図	甕	第６図１層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナデ、突帯部はヨコナデ、その他不明。胎土は２㎜以下の石英、長石を少量含む。焼成良好。色調は内外面ともに淡橙色。	
14	第９図	甕	第７図５層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナデ、外面はタテハケ、突帯部はヨコナデ、内面はヨコナデ。胎土は２㎜以下の石英、長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～淡灰白色、内面黄灰色。	

番号	挿図 図版	器 種	出土位置	法量（cm）①口径②器高③底径④胴部最大径⑤脚裾部径	残存状態	調 整 及 び 特 徴	備 考
15	第９図	甕	第６図 11 層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナデ、外面がタテハケ、内面は不明。胎土は１㎜以下の石英、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は外面にぶい褐色、内面灰色～灰黄褐色。	煤付着
16	第９図	甕棺	第７図４層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナデ、内面は工具による横方向のナデ（ミガキ？）。外面は不明。胎土は１㎜以下の石英、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	接合しないが、同一個体と思われる資料があり、これを含めると全体が1/3 残存。
17	第９図	壺	表採		口縁部小片	調整は内面斜め方向のハケ、外面不明。胎土は 3.5 ㎜以下の石英、長石をやや多く含みやや密。焼成やや良好。色調は内外面ともににぶい褐色～橙色。	
18	第９図		第５図５層		口縁部小片	調整は外面タテハケ、突帯部はヨコナデ、内面ヨコナデ。胎土は３㎜以下の石英、長石、雲母を多く含む。焼成やや良好。色調は内外面ともに橙色。	
19	第９図	壺	第７図５層	①(13.1)④(12.8)	口縁部小片胴部 1/2	調整は口縁部ナデ、外面ハケ、内面ナデ。胎土は３㎜以下の石英、長石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
1	第 10 図	壺	第５図７層	③(6.4)	底部 1/4	調整は底部外面ナデ、外面タテ方向のミガキ、内面は調整不明。胎土は１㎜以下の石英、長石、雲母を含み精製。焼成やや良。色調は外面明黄褐色～褐色、内面淡褐色灰色。	丹塗り
2	第 10 図	壺	第６図５層	③(7.9)	底部完存	調整は底部外面ナデ、底部内面に指頭痕、その他調整不明。胎土は３㎜以下の石英、長石を多く含む。焼成やや不良。色調は外面にぶい黄橙色、内面橙色。	
3	第 10 図	甕	第５図７層	③(7.4)	底部 1/4	調整は内外面ともにナデ。胎土は１～３㎜程度の石英、長石を非常に多く含みやや粗。焼成良好。色調は外面浅黄橙色～赤褐色、内面灰白色。	
4	第 10 図	壺	第５図５層	③(7.0)	底部完存	調整は不明。胎土は３㎜以下の石英、長石をやや多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄橙～にぶい黄橙色。	
5	第 10 図	甕	包含層	③(7.0)	底部 1/2	調整は底部外面ナデ、その他不明。胎土は３㎜以下の石英、長石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
6	第 10 図	壺	第５図５層	③(6.1)	底部完存	調整は不明。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
7	第 10 図	壺	第５図５層	③6.0	底部完存	調整は外面ナデ、内面は指圧痕あり。胎土は１㎜以下の石英、長石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに明黄褐色。	
8	第 10 図	壺	第５図 3･4 層	③4.9	底部完存	調整は外面不明、内面タテハケ、底部内面ヨコハケ。胎土は２㎜以下の石英をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明黄褐色、内面赤褐色。	
9	第 10 図	壺	第５図 3･4 層	③7.5	底部完存	調整は内面ハケ、底部内面工具による圧痕あり、外面は不明。焼成やや良好。色調は外面淡黄色、内面褐灰色。	
10	第 10 図	甕	第５図５層	③(7.7)	底部 1/2	調整は外面ハケ後ナデ、外面底部ナデ、内面は不明。胎土は５㎜以下の石英、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色、内面淡灰褐色。	
11	第 10 図	甕	第７図５層	③(6.8)	底部 1/4	調整は内面ナデ、外面不明。胎土は１～３㎜程度の石英、長石を含む。焼成良好。色調は外面にぶい黄橙色、内面灰黄色。	
12	第 10 図	甕	包含層下 Pit	③(7.6)	底部 1/2	調整は外面タテハケ、底部外面ナデ、内面不明。胎土は２㎜以下の長石をやや多く含む。焼成やや不良。色調は外面橙～にぶい赤褐色、内面灰橙褐色～黒灰褐色。	
13	第 10 図	甕	第６図 11 層	③(7.1)	底部 1/3	調整は外面タテハケ、内面不明。胎土は３㎜以下の石英、長石などを少量含み、やや密。焼成良好。色調は外面明黄褐色～黄褐色。内面明黄褐色。	
14	第 10 図	甕	第６図１層	③7.8	底部 3/4	調整は外面タテハケ、内面不明。胎土は２㎜以下の石英、長石を少量含む。焼成やや不良。色調は外面淡灰橙色～淡灰橙白色、内面灰白色～褐灰色。	
15	第 10 図	甕	第６図 11 層	③7.3	底部完存	調整は外面タテハケ、底部外面ナデ、底部内面指圧痕。胎土は３㎜以下の石英、長石をやや多く含み、１ mm 以下の橙色粒や雲母もわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに明黄褐色。	
16	第 10 図	甕	第７図５層	③(7.2)	底部 1/2	調整は不明。胎土は１～３㎜程度の石英、長石を多く含みやや密。焼成良好。色調は外面灰白色、外面底部にぶい橙色、内面淡灰茶褐色。	
17	第 10 図	甕	第７図５層	③(7.2)	底部 1/3	調整は不明。胎土は１～２㎜程度の石英、長石を非常に多く含みやや粗。焼成良好。色調は外面淡黄橙色～淡赤褐色、内面明褐灰色。	
18	第 10 図	甕	第６図 11 層	③(7.3)	底部と胴部下半を一部残存	調整は不明。胎土は３㎜以下の赤色砂粒、石英、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～明黄褐色、内面明黄褐色～暗褐色。	
19	第 10 図	甕	第６図 11 層	③(9.0)	底部 1/3	調整は外面下半タテハケ、その他調整不明。胎土は２㎜以下の石英、長石をやや多く含み、１ mm 以下の雲母も少量含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～明黄褐色、内面黒色。	
20	第 10 図	甕	第６図１層	③(8.6)	底部 1/2	調整は外面タテハケ、その他調整不明。胎土は３㎜以下の石英、長石、灰色砂粒を多く含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに暗赤褐色～にぶい橙色。	
21	第 10 図	甕	第７図５層	③(9.6)	底部 1/2	調整は外面タテハケ、外面底部ナデ、内面不明。胎土は４㎜以下の石英、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面灰白色～黒褐色、内面浅黄橙色。	

番号	挿図 図版	器 種	出土位置	法量（cm）①口径②器高③底径 ④胴部最大径⑤脚裾部径	残存状態	調 整 及 び 特 徴	備 考
22	第 10 図	甕	第 5 図 3･4 層	③10.3	底部完存	調整は不明。胎土は 4 ㎜以下の石英、長石を非常に多く含む。焼成やや不良。色調は外面赤褐色～明黄褐色、内面赤褐色。	
23	第 10 図	甕	第 7 図 5 層	③(6.6)	底部 1/2	調整は外面タテハケ後ナデ、底部外面ナデ、内面工具によるナデ、内面底部ヨコハケ。1 ～ 3 ㎜程度の石英、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面にぶい黄橙色～赤褐色、内面灰白色～赤褐色。	
24	第 10 図	壺	第 7 図 5 層	③(7.6)	底部 1/2	調整は不明。胎土は 1 ㎜以下の長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明黄褐色、内面黄灰色～灰褐色。	丹塗り
25	第 10 図	甕	包含層	③8.4	底部完存	調整は不明。胎土は 3 ㎜以下の石英、長石をやや多く含み、1 mm 以下の雲母片もわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに浅黄橙色。	
26	第 10 図	壺	第 5 図 5 層	③(8.1)	底部 1/2	調整は外面タテハケ、ヨコナデ、外面底部ナデ、内面不明。胎土は 1 ～ 5 ㎜程度の石英、長石、雲母、赤色砂粒を非常に多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色～赤褐色。	
27	第 10 図	甕	包含層	③(9.8)	底部 1/3	調整は不明。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
28	第 10 図	甕	第 7 図 5 層	③7.2	底部完存	調整は外面板状工具によるタテ方向のナデ、内面底部ハケ後ナデ。胎土は 3 ㎜以下の石英、長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外面暗褐色、内面にぶい黄褐色。	
29	第 10 図	甕	第 7 図 5 層	③4.8	底部完存	調整は外面タテハケの後ナデ、内面タテハケ。胎土は 3 ㎜以下の石英、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は外面明黄褐色～にぶい橙色、内面赤褐色。	
30	第 10 図	壺？	第 7 図 5 層	③3.7	底部完存	調整は外面タテハケ、外面底部ナデ、内面不明。胎土は 5 ㎜以下の石英、長石、雲母を多く含む。焼成やや良好。色調は外面灰白色～赤褐色、内面黄褐色～赤褐色。	
31	第 10 図	壺	第 5 図 5 層	③(9.5)	底部 1/3	調整は不明。胎土は 4 mm 以下の石英、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色、内面赤褐色～灰白色。	
32	第 10 図	壺	第 5 図 5 層	③6.8	底部～胴部下半を約 1/2	調整は外面タテハケ、内面不明。胎土は 5 ㎜以下の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成良好。色調は外面灰白色～浅橙色、内面浅黄色。	
33	第 10 図	甕	第 7 図 5 層	③(6.9)	底部 1/2	調整は外面タテハケ、外面底部ナデ、内面ハケ、内面底部指圧痕あり。胎土は 3 ㎜以下の石英、長石を多く含む。色調は外面灰黄褐色～淡赤褐色、内面黄褐色。	
34	第 10 図	甕	第 7 図 5 層	③(7.0)	底部 1/2	調整は外面タテハケ、外面底部ナデ、一部板状圧痕、内面ヨコハケ。胎土は 1.5 ㎜以下の石英、長石、雲母をわずかに含む。焼成良好。色調は外面にぶい橙色～淡橙色、内面灰白色。	
35	第 10 図	甕	第 7 図 5 層	③(6.6)	底部 1/3	調整は外面ヨコナデ、その他不明。胎土は 1 ～ 5 ㎜程度の石英、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色で部分的ににぶい黄橙色。	
36	第 10 図	甕？	包含層	③4.0	底部完存	調整は内面ハケ、その他不明。胎土は 3 ㎜以下の石英、長石、雲母、黒色粒をやや多く含む。焼成やや不良。色調は外面橙色～淡灰橙色、内面浅黄橙色～灰褐色。	
37	第 10 図	甕	第 6 図 5 層	③2.6	底部完存	調整は外面ヘラケズリ、外面底部ヘラケズリ後粗いナデ、指圧痕あり。胎土は 2 ㎜以下の石英、長石、雲母、角閃石を少量含む。焼成良好。色調は外面黒褐色～黒色、内面暗赤褐色。	
38	第 10 図	甕	第 6 図 5 層		底部完存	調整は内面不定方向のハケ後指押さえ、外面不明。胎土は 6 ㎜以下の石英、長石、雲母、橙色粒を多く含む。焼成良好。色調は外面明褐灰色～暗赤褐色、内面暗赤褐色。	
39	第 10 図	鉢	第 6 層 2 ～ 4 層	①(19.2)②11.75③6.8	全体の 1/2	調整は不明。胎土は 1 mm 程度の石英、長石を多く含み、4 mm 程度の石英もわずかに含む。微細な雲母粒子を少量含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～暗赤褐色、内面赤褐色～にぶい橙色。	
1	第 11 図	高坏	第 5 図 5 層	①(19.4)	口縁部 1/4	調整は坏部外面上半ヨコナデ後ミガキ、下半はヨコナデ、内面はヨコナデ。胎土は 8 ㎜以下の石英、長石、角閃石と、微細な雲母を含み密。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
2	第 11 図	高坏	第 6 図 2 ～ 4 層	③(12.0)	裾部 2/3 と坏部の一部	調整は不明。胎土は 2 ㎜以下の石英、長石をやや多く含み、微細な雲母粒子もわずかに含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～明黄褐色、内面明黄褐色。	
3	第 11 図	高坏	第 7 図 5 層	⑤(17.0)	裾部 1/4 と坏部の一部	調整は不明。胎土は 3 ㎜以下の石英、長石をやや多く含む。焼成やや不良。色調は外面灰白色～淡橙色、脚部内面灰白色、坏部内面淡橙色。	丹塗り
4	第 11 図	高坏	第 5 図 5 層	⑤8.35	脚部完存	調整は不明。胎土は 5 ㎜以下の石英、長石と微細な雲母を多く含み、やや粗。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
5	第 11 図	鉢	第 5 図 7 層	③4.4	底部完存	調整は内面ナデか、外面不明。胎土は 1 ～ 3 ㎜程度の石英、長石を多く含みやや粗。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色～赤褐色。	
6	第 11 図	壺	第 5 図 7 層	③3.8	底部完存	調整は外面板状工具による成形後ナデ？内面ナデ、内面底部指圧痕あり。胎土は 1 ㎜以下の石英、長石、雲母をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明黄褐色、内面暗灰黄色。	
7	第 11 図	鉢	第 5 図 3･4 層		口縁～胴部片	調整は不明。胎土は 1 ～ 5 ㎜程度の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成不良。色調は内外面ともに浅黄橙色。	
8	第 11 図	器台	第 7 図 5 層		脚裾部欠損	調整は頂部粗いナデ後ハケ？外面胴部はタテハケ、内面ヨコハケ。胎土は 5 ㎜以下の石英、長石、橙色粒、雲母を多く含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに橙色～明褐色。	

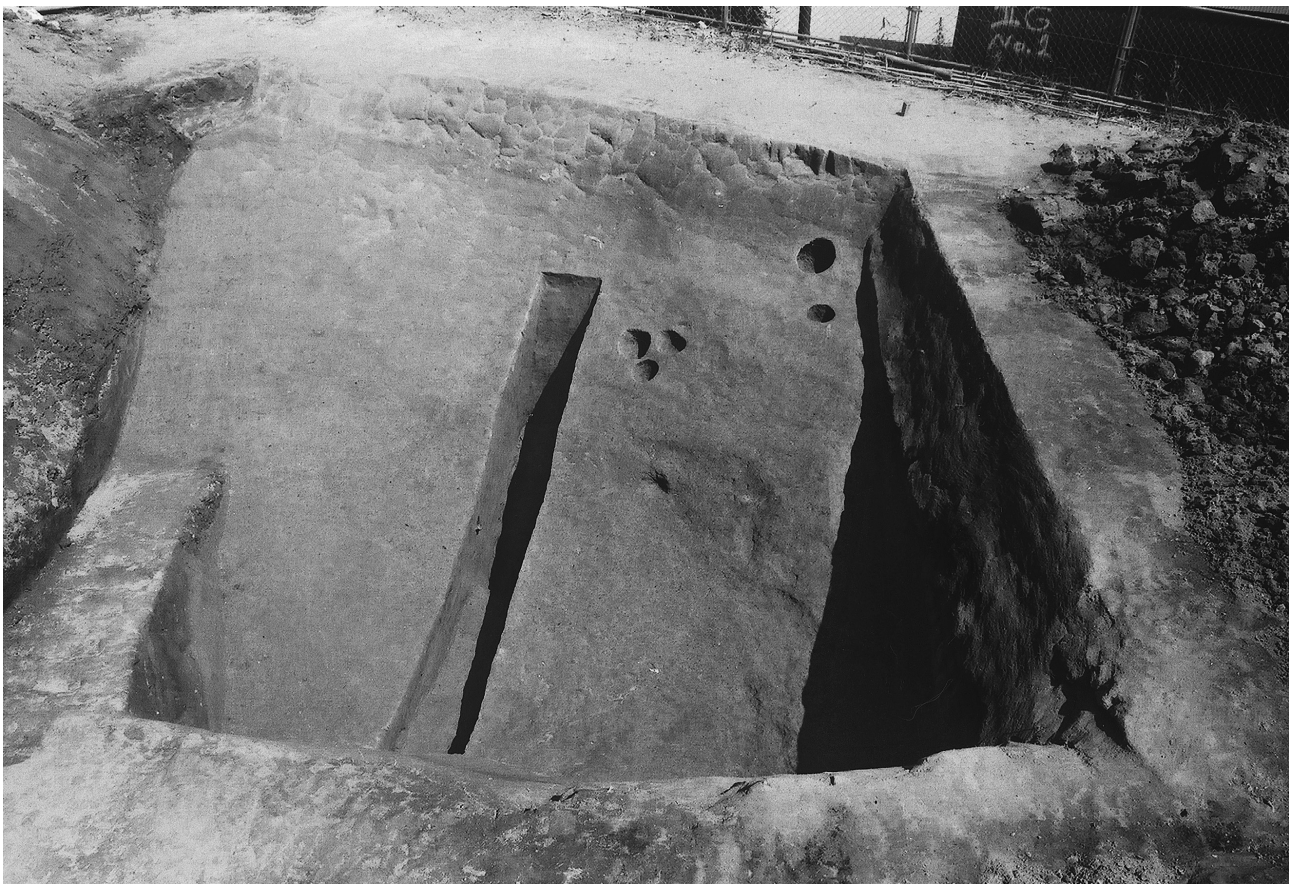
番号	挿図 図版	器 種	出土位置	法量（cm）①口径②器高③底径④胴部最大径⑤脚裾部径	残存状態	調 整 及 び 特 徴	備 考
9	第 11 図	器台	第 7 図 5 層		頂部～胴部 1/2	調整は外面ナデ、その他不明。胎土は２㎜以下の石英、長石を少量含み、微細な雲母粒子も含む。焼成良好。色調は内外面ともににぶい黄橙色。	
10	第 11 図	器台	第 6 図 5 層		頂部～胴部上半	調整は内面ナデ、その他不明。胎土は４㎜以下の石英、長石をやや多く含む。焼成やや不良。色調は外面浅黄橙色～にぶい橙色、内面浅黄橙色。	
11	第 11 図	器台	第 5 図 7 層	③9.5	裾部 1/2	調整は内面指圧痕あり、その他不明。胎土は１～３㎜程度の石英、長石を非常に多く含みやや密。色調は外面明黄褐色～赤褐色、内面灰黄褐色～赤褐色。	
12	第 11 図	器台	第 6 図 1 層	③10.6	裾部 1/2	調整は内面タテ方向のナデ、一部横方向のナデ、外面不明。胎土は２㎜以下の石英、長石をやや多く含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに橙色、一部浅黄橙色。	
13	第 11 図	器台？ 鞴？	第 7 図 5 層	①6.8②10.9⑤(10.9)	全体の 1/3	調整は内面一部ナデ、その他不明。胎土は４㎜以下の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成不良。色調は内外面ともに橙色。	
14	第 11 図	蓋	第 5 図 11 層	①17.1②5.4③天井部径 4.1	口縁端部と胴部の一部欠損	調整は外面タテハケ、外面天井部ナデ。内面天井部ナデ。胎土は５㎜以下の石英、長石、雲母、角閃石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに橙色～浅黄橙色。	
15	第 11 図	壺	第 6 図 5 層	④(14.65)	胴部 1/4	調整は外面ナデ？内面ヨコハケ。胎土は２㎜以下の石英、長石をやや多く含む。焼成良好。色調は外面灰白色～浅黄橙色～褐灰色、内面にぶい黄褐色～褐灰色。	
16	第 11 図	壺	第 5 図 3・4 層	④(15.3)	口縁端部と口縁～胴部上半を 1/4 欠損	調整は内面頸部ハケ、その他調整不明。胎土は５㎜以下の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成不良。色調は内外面ともに灰黄褐色。	
17	第 11 図	甕	第 7 図 5 層	③(7.8)	底部 1/3	調整は内面タテハケ後指圧痕、外面不明。胎土は１～３㎜以内の石英、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は外面黄褐色、内面黒褐色。	
1	第 12 図	甕	第 7 図 4 層		口縁部小片	調整は外面胴部タテナデ、外面頸部ヨコナデ後指圧痕、口縁部ヨコナデ、内面胴部板状工具によるヨコナデ、内面頸部付近ナナメナデ。胎土は１㎜以下の長石と微細な雲母を含みやや密。焼成良好。色調は内外面ともに浅黄色。	
2	第 12 図	甕	包含層		口縁部小片	調整は外面タテハケ、口縁端部はヨコナデ、口縁部内面はヨコハケ後ヨコナデ、内面胴部はケズリ。胎土は１～３㎜程度の石英、長石、雲母、赤色砂粒を含む。焼成良好。色調は内外面ともに橙色。	
3	第 12 図	甕	第 5 図 3・4 層	④(18.4)	底部～胴部にかけて 2/3	調整は外面胴部タテハケ、内面ヨコナデ、一部タテ方向のナデ、内面底部ナデ。胎土は 0.5～８㎜の石英、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色、内面淡黄色～赤褐色。	
4	第 12 図	甑	表採		把手部	調整は外面ナデ、一部指圧痕、内面ヘラケズリ。胎土は２㎜以下のの石英、長石を少量含む。焼成やや良好。色調は内外面ともににぶい橙色～橙色。	
5	第 12 図	埦	包含層	③高台径 7.7	高台部完存	調整は高台部ヨコナデ、内面ミガキ。胎土は２㎜以下の石英、長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外面浅黄橙色、内面褐灰色。	黒色土器
1	第 13 図	蓋	第 5 図 5 層	①12.2②4.7	天井部完存 口縁部 1/4	調整は外面回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面回転ナデ、天井部同心円状のあて具痕あり。胎土は３㎜以下の白色粒を少量含む。焼成良好。色調は外面灰白色、一部褐灰色、内面灰色。	
2	第 13 図	坏身	第 5 図 5 層		口縁部小片	調整は内外面ともに回転ナデ。胎土は微細な砂粒をわずかに含み精良。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに灰白色。	
3	第 13 図	蓋	第 6 図 5 層		つまみ 1/2～天井部片	調整はつまみ部回転ナデ、内面不定方向のナデ。胎土は１㎜程度の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに灰白色。	
4	第 13 図	蓋	包含層	①(13.0)②2.7 つまみ部径 2.2	全体の 1/4	調整は外面回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、内面ヨコナデ後回転ナデ。胎土は微細な砂粒をわずかに含む。焼成良好。色調は外面灰色、内面灰白色。	
5	第 13 図	蓋	第 7 図 5 層	①(13.0)	口縁部 1/10	調整は外面から口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ後不定方向のナデ。胎土は１㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰色。	
6	第 13 図	蓋	第 5 図 5 層	①(13.8)	口縁部 1/2	調整は外面天井部回転ヘラケズリ、内面天井部不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は１㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は口縁端部褐灰色、その他灰色。	
7	第 13 図	蓋	第 5 図 5 層	①(14.3)	全体の 2/5	調整は外面回転ヘラケズリ、ヨコナデ、内面回転ナデ後不定方向のナデ、口縁端部回転ナデ。胎土は１㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに灰色、一部暗灰色。	
8	第 13 図	蓋	第 5 図 5 層	①(15.4)	口縁部 1/3	調整は外面回転ヘラケズリ後やや粗いナデ、内面回転ナデ後不定方向のナデ、口縁部回転ナデ。胎土は 1.5 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は口縁端部暗灰色、その他灰色。	
9	第 13 図	蓋	第 7 図 4 層	①(15.0)	口縁部 1/4	調整は外面回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向のナデ。胎土は 1.5 ㎜以下の白色粒を含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに褐灰色。	
10	第 13 図	蓋	第 7 図 4 層	①(16.2)②1.5 つまみ部径 2.1	全体の 1/5	調整は外面回転ヘラケズリ、つまみ部回転ナデ、口縁部回転ナデ、内面回転ナデ後ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成良好。色調は内外面ともに灰色。	
11	第 13 図	蓋	包含層	①(10.0)②2.6 つまみ部径 2.3	口縁～天井部 1/2	調整は外面回転ヘラケズリ、つまみ部回転ナデ、口縁部ヨコナデ、内面回転ナデ後ナデ。胎土は 1.5 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
12	第 13 図	坏	第 7 図 4 層	①13.4②4.1	口縁～体部を一部欠損	調整は外面底部回転ヘラ切り後ナデ、内面底部ヨコナデ後ナデ、その他回転ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	

番号	挿図 図版	器 種	出土位置	法量（㎝）①口径②器高③底径④胴部最大径⑤脚裾部径	残存状態	調 整 及 び 特 徴	備 考
13	第 13 図	坏	第 7 図 4 層	①(13.2)②4.35③7.6	全体の 1/6	調整は外面底部回転ヘラ切り後ヨコナデ、内面底部回転ナデ後ナデ、その他回転ナデ。胎土は 1 mm 以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰色。	
14	第 13 図	坏	第 7 図 4 層	①(13.8)②4.25③(8.8)	全体の 1/4	調整は外面体部回転ナデ後粗いナデ？外面底部回転ヘラ切り後ナデ、高台部回転ナデ、内面底部不定方向のナデ、内面体部回転ナデ、一部にヨコナデ痕。焼成良好。色調は内外面ともに灰色。	
15	第 13 図	坏	第 7 図 4 層	①(14.4)②4.05③(9.4)	口縁部～体部 1/4 と底部 1/2	調整は外面底部回転ヘラ切り、内面底部回転ナデ、一部不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 1 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
16	第 13 図	坏	第 7 図 5 層	①(15.0)②4.0③(9.0)	底部高台部 1/4 と体部口縁部の一部	調整は外面底部回転ヘラ切り、内面底部回転ナデ後不定方向のナデ、その他回転ナデ後。胎土は 1 ㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。焼成良好。色調は外面灰白色、一部暗灰色、内面灰白色。	
17	第 13 図	坏	第 5 図 5 層	③高台径 7.9	底部 2/3	調整は外面回転ナデ、外面底部回転ナデ後不定方向のナデ、内面底部回転ナデ後不定方向のナデ。胎土は 1 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰色。	
18	第 13 図	坏	包含層	③高台径 (10.0)	底部 1/6	調整は外面底部ヘラ切り後ナデ、外面体部回転ヘラケズリ、高台部回転ナデ、内面回転ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
19	第 13 図	坏	第 6 図 5 層		底部～高台部小片	調整は高台部回転ナデ、内面底部回転ナデ後不定方向のナデ。胎土は 1 ㎜以下の白色砂粒をわずかに含む。3 ～ 5 ㎜程度の砂粒をごくわずかに含む。焼成やや不良で軟質。色調は内外面ともに灰白色。	
20	第 13 図	坏	包含層	①(12.0)②3.1③(8.2)	全体の 2/5	調整は外面底部回転ヘラ切り後粗いナデ、内面底部回転ナデ後不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 2 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。4 ㎜程度の砂粒をわずかに含む。2 ㎜以下の黒灰色混入物少量含む。焼成良好。色調は口縁端部は暗灰色、その他灰色。	
21	第 13 図	坏	表採	①(15.6)②4.0③10.8	底部ほぼ完存と口縁部小片	調整は外面底部ヘラ切り後やや粗いナデ、内面底部回転ナデ後不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 2 ㎜以下の砂粒を少量含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに暗灰色。	
22	第 13 図	坏	第 5 図 5 層	①11.4②1.4③9.2	全体の 2/3	調整は外面底部ヘラケズリ後粗いナデ、内面底部回転ナデ後不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 1 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに暗灰色。	
23	第 13 図	皿	第 7 図 4 層	①(14.8)②2.0③(11.6)	全体の 1/2	調整は外面底部回転ヘラ切り後ヨコナデ、その他回転ナデ。胎土は 1 ㎜以下の砂粒を含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰色。	灰かぶり
24	第 13 図	皿	第 5 図 5 層	①(14.5)②2.15③(11.4)	口縁部～底部 1/5	調整は外面底部回転ヘラ切り後ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、その他回転ナデ。胎土は 1 mm 以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
25	第 13 図	皿	包含層	③11.2	底部 3/4	調整は外面底部回転ヘラ切り、内面底部回転ナデ後一部に不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 2 ㎜以下の白色粒子を少量含む。焼成良好で硬質。色調は外面底部は灰色、体部付近暗灰色、内面灰色。	
26	第 13 図	皿	包含層	①(17.2)②2.2③(14.4)	底部 1/3 と口縁部の一部	調整は外面底部回転ヘラ切り後粗いナデ、その他回転ナデ。胎土は 0.5 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は外面灰白色～灰色、内面明青灰色。	
27	第 13 図	皿	第 5 図 5 層	①(19.4)②2.0③(16.3)	口縁部～底部 1/4	調整は内外面ともに回転ナデ。胎土は 1 mm 以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰色白。	
28	第 13 図	皿	第 7 図 4 層	①(19.95)②2.75③(16.8)	口縁部～胴部 1/3	調整は外面底部ヘラ切り後ナデか？内面底部回転ナデ後不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 1 mm 以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
29	第 13 図	皿	第 5 図 5 層	①13.8②1.9③10.8	口縁部 1/4 欠損	調整は外面底部回転ヘラ切り後やや粗いナデ、内面底部回転ナデ後ナデ、その他回転ナデ。胎土は 3 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに灰色。	
30	第 13 図	瓶	包含層	③(12.0)	胴部下半 1/5	調整は内外面ともに回転ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず精良。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
31	第 13 図	双耳瓶	第 7 図 4 層		体部、把手部小片	調整は外面ナデ、内面回転ナデ。胎土は 1 ㎜以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は外面暗灰色～灰色、内面灰白色。	
1	第 14 図	甕	第 5 図 5 層		頸部～肩部の小片	調整は外面平行タタキ、内面頸部ヨコナデ、胴部あて具痕。胎土は 1 ㎜未満の白色粒を少量含む。焼成やや良好。色調は内外面ともに灰白色～灰色。	灰かぶり
2	第 14 図	壺	第 7 図 4 層	①(26.8)④(30.0)	口縁部 1/8、肩部・体部の一部	調整は口縁部回転ナデ、内面体部回転ナデ、一部に不定方向のナデ、その他回転ナデ。胎土は 1.5 ㎜以下の白色粒を少量含む。焼成良好で硬質。色調は外面口縁端部・体部は暗灰色、くびれ部灰色、内面灰白色。	灰かぶり
1	第 15 図	碗	包含層		口縁部小片	調整は内外面ともに回転ナデ。色調は胎土部灰白色、施釉灰オリーブ色。	施釉
2	第 15 図	碗	第 7 図 5 層		口縁部小片	調整は内外面ともに回転ナデ。焼成良好。色調は胎土部灰白色、施釉灰オリーブ色。	施釉
3	第 15 図	碗？皿？	表採	③(6.4)	高台部 1/4	調整は回転ナデ。胎土は精良。焼成良好。色調は胎土部灰白色、施釉灰白色。	施釉

図　　版

（1）調査区西半全景（東から）

（2）調査区西半西壁土層断面（北東から）



（1）調査区東半全景（南から）

（2）調査区東半東壁土層断面（西から）

（1）第２トレンチ東壁土層断面（南西から）

（2）第２トレンチ南端西壁（東から）

図 8-1

図 8-7

図 8-8

図 8-9

図 9-5

図 9-7

図 10-9

図 10-18

図 10-23

図 10-29

図 10-39

図 11-1

図 11-4

図 11-5

図 11-6

包含層出土弥生土器

図 11-8

図 11-10

図 11-13

図 11-14

図 11-16

図 12-3

図 13-1

図 13-6

図 13-10

図 13-12

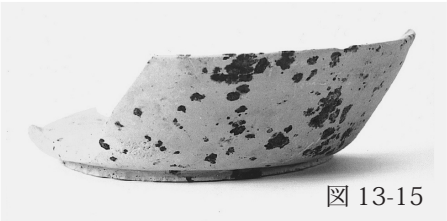


図 13-15

図 13-20

図 13-22

図 13-23

図 13-28

図 13-29

図 13-31

図 17-1

包含層出土弥生土器、須恵器、瓦

図 16-2

図 16-1

図 19-1

図 20-6

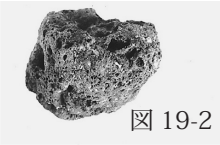


図 19-2

図 20-4

図 20-7

図 20-1

図 20-2

図 20-5

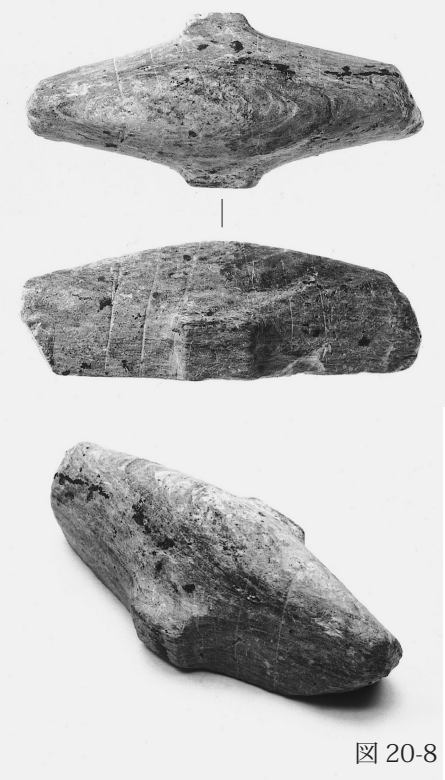


図 20-8

図 20-3

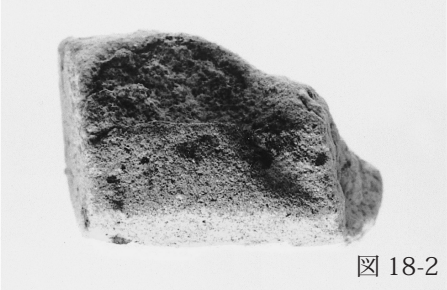


図 18-2

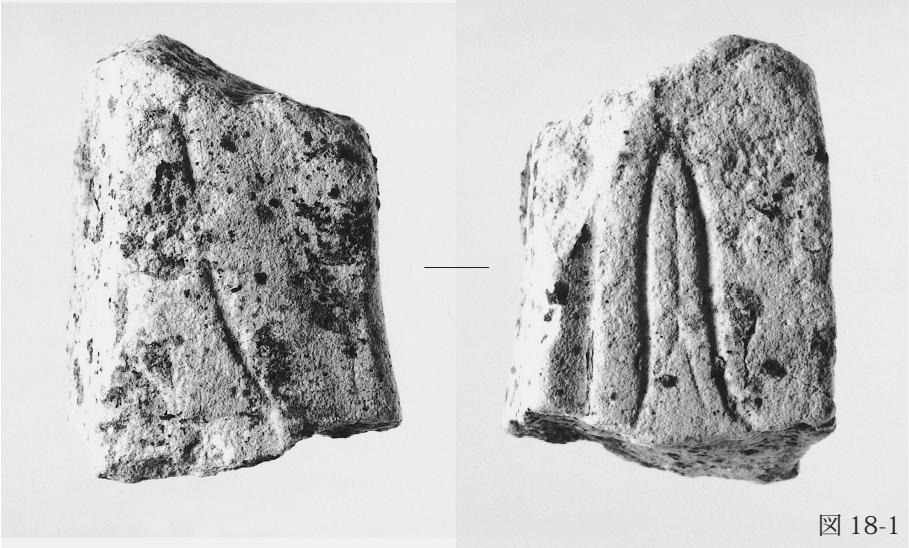


図 18-1

図 20-9

包含層出土土製品、石器、鉄器、青銅器鋳造関連遺物

報告書抄録

ふりがな	どうぞの　いせき
書名	堂園遺跡　1次調査
副書名	福岡県春日市小倉所在遺跡の調査
巻次	
シリーズ名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第67集
編著者名	森井千賀子
編集機関	春日市教育委員会
所在地	〒816-0804　福岡県春日市原町3丁目1番地5　TEL 092-584-1111
発行年月日	2012年3月31日

所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
堂園遺跡	ふくおかけんかすがし　こくら 福岡県春日市小倉 ちょうめ 2丁目73、90、91-1、92-2	40218		33° 31′ 52″	130° 27′ 13″	2008.8.6 ～ 2008.9.5	84.9㎡	開発に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堂園遺跡	集落	弥生～中世	包含層	弥生土器、土師器、須恵器、石器 青銅器鋳型	

要約	当遺跡は春日丘陵の中央部で、丘陵を東西に隔てる谷部の北側に面した小丘陵の斜面に位置し、標高 34m 前後を測る。当遺跡は弥生時代の遺跡が多く所在する須玖遺跡群の中にあり、周辺の遺跡には、広形銅戈の鋳型が出土した大南遺跡や、弥生時代の鉄器工房跡と考えられる仁王手A遺跡がある。 当遺跡は包含層の調査で、包含層から出土した土器の採集が主であった。出土遺物の状況から、北側斜面上には弥生時代中～後期の集落があったと思われる。また、溶着した須恵器の破片も多く出土していることから、極めて近い地点に須恵器の窯跡があったと想定される。

堂　園　遺　跡

春日市文化財調査報告書

第67集

2012年3月31日

発　行　春日市教育委員会

福岡県春日市原町３丁目１番地５

印　刷　株式会社 四ケ所

福岡県朝倉市馬田336